

サイコロン20

2024.10 SAIKORO CULB

CONTENTS

- ▶ TRPG ってなあに？
- ▶ サイコロ倶楽部年間活動報告
- ▶ 迷宮デイズ リプレイ
- ▶ あとがき

▶ TRPG ってなあに？

TRPG とは、Table talk Roll Playing Game

「楽しく喋りながら、役割を演じるゲーム」のことです！

ゲームで遊ぶ人たち「プレイヤー」は、架空世界の住人である「キャラクター」を演じ、司会進行役である「ゲームマスター」と共に、その物語がより良いもの、素敵なものとなるように行動していきます。有名なドラゴンクエストやファイナルファンタジーといったコンピューターRPGとは異なり、TRPGには決まったストーリーはありません。ゲームマスターが用意した物語のあらすじ「シナリオ」があるだけで、その他の内容は、プレイヤーとゲームマスターが即興の会話で作り上げていきます。用意したシナリオが同じでも、遊ぶプレイヤーが違えばそれは全く違った物語となるのです。

遊び手の想像力次第で、無限に広がる物語。それが TRPG の最大の魅力です。

▷ TRPG 基本用語

PL…プレイヤー。ゲームを遊ぶ人のことです。

GM…ゲームマスター。ゲームのシナリオを作り、司会進行をする人のことです。

PC…プレイヤーキャラクター。PL がゲーム内で演じる役のことです。

NPC…ノンプレイヤーキャラクター。GM が演じる、PC 出ない役のことです。

ダイス…サイコロのことです。3D6 や 1D100 のように（振るサイコロの個数）D（サイコロ一つの面の数）で表されます。

判定…ゲームの中の PC の行為が成功するか、サイコロを使って決めることです。PC の能力値＋サイコロの出目が GM の設定した数値を上回れば成功です。

達成値…判定の際に出た数値です。いかに上手く行為が出来たかを表します。

クリティカル…特別な出目（一般的に全部 6）の時、その行動は必ず成功となります。結果にボーナスが発生する時もあり、行動を有利に進められます。

ファンブル…特別な出目（一般的に全部 1）の時、その行動は必ず失敗となります。時にペナルティが発生してしまうことも…！？

▶ サイコロ倶楽部年間活動報告

年間活動スケジュール

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
会・体験会	新入生向け説明	自主活動	文化祭準備	◎春正規活動	文化祭準備	◎文化祭		自主活動	◎秋正規活動	自主活動	自主活動

サイコロ倶楽部では以上のような活動を行い、ゲームを楽しみながら交流を深めています。春・秋の正規活動では、例年長編ストーリーの TRPG をプレイしていて、近年はオンラインでのプレイが多くなっています。GM や PC が工夫を凝らし、笑いと感動に満ちた楽しいゲームが作られています。

次からは、2023年春の正規活動のリプレイを載せています。

▷ リプレイとは？

リプレイとは、実際に行ったセッションを収録し書き起こして、読み物の形式にまとめたものです。

「TRPG ってなんだか面白そうだけど、実際はどんな感じなんだろう？」というあなたに、楽しさが少しでも伝われば幸いです。

▶シニカルポップ・ダンジョンシアター 迷宮デイズリプレイ

「あなたに捧げる杯を」

GM：しろすけ

◇ 迷宮デイズとは？

街に突如として発生する「迷宮災厄（ダンジョン・ハザード）」。いつもの平和な街を取り戻すためには、危険な迷宮を攻略しなければならない。そんな事態を解決できるのは、我らが迷宮屋だけである。

◇ あらすじ

探索者たちは迷宮屋として活動している。今日も家に集まって何気ない世間話に花を咲かせていると郵便受けに何か入れられる音がした。見てみると見知らぬ封筒が入っていた。開けるとそれは、貴楽部財閥のご令嬢の生誕祭の招待状であった。突然の有名人の生誕祭への招待に困惑していると、謎の紙の切れ端も同封されていたことに気づく。それにはただ一言「たすけて」の文字があった。

◇ キャラクター紹介

財多 美剣 17歳 PL：さく

クラス：勇者

自分のことが大好きなナルシスト。勉強が好き。迷宮屋をしているのは注目を浴びたいからであり、注目されていると意識すると嬉しくなってしまう。三守 茉莉とは幼馴染である。茉莉のことを大切に思っているが、恥ずかしいのでそれを表に出すことは無い。

三守 茉莉 17歳 PL：くま

クラス：術師

チームを後ろから支える心優しい女の子。昔は泣き虫でよく美剣に引っ付いていた。6歳下の義弟が激しい痛みを伴う難病を患っているため、痛みに対して強い忌避感がある。メンバーにも義弟にも傷ついてほしくないと思っているため、回復薬を常備している。

イレエネ 21歳 PL：あいろん

クラス：傭兵

2人の迷宮攻略をお手伝いしている傭兵。主に戦闘を担当し、大鎌を愛用している。平和のために、悲しむ人を増やさないために傭兵になった。まともに友達がいなかったため、距離感がバグっている。犬がどうも苦手。

『シニカルポップ・ダンジョンシアター 迷宮デイズ』

著者：河嶋陶一郎

発行：冒険企画局

GM／では、迷宮デイズの方始めさせていただきます。

さく・くま・あいろん／よろしくお願いします。

GM／まずはですね、それぞれ己のキャラクターを少しね、紹介というか、お名前とこんな感じの子だよみたいなのを。じゃあ……上から。財多くんから順に。

さく／自分の名前も言った方がいいですか？

GM／あ、じゃあそうだね、名前も。

さく／今回、財多美剣をやります、さくと申します。よろしくお願いします。

くま・あいろん／お願いします。

さく／めっちゃ緊張してる（笑）財多美剣くんは高校2年生、17歳。自分のことが大好きなナルシストです。自信に満ち溢れた行動を基本的に取ります。あと勉強が好きです。知識が自分に増えていくのが楽しいタイプの人間。で、勇者として迷宮屋をやっているのは、注目を浴びたいから。みんなの目が自分に向いていることを意識すると、嬉しくなってしまう。……ちよつと、やばい人なんです。

ね。褒められると調子に乗ります。

次に紹介される水守茉莉ちゃんって子がいらつしやるんですけど、そちらの子とは同級生で、今は高校多分違うんですけど、幼稚園からの知り合いでいわゆる幼馴染となっておりまして。「茉莉」って言うんですけど、茉莉が昔泣き虫で引つ付いてきていたことも覚えております。茉莉のことを大切に思っておりませんが、あまりそれは表に出すことはありません。恥ずかしいので。

で、幼稚園……幼稚園じゃないや（笑）遊園地が苦手です。なぜかという、茉莉と昔、家族で行ったのか二人で行ったのかはちょっとわからないですけど、一緒に遊園地に行ったときに、あまり得意ではないお化け屋敷やジェットコースターに乗ったあとにご飯を食べさせられ、コーヒークップで最高速度で回され、食べたものを戻したという過去があるので苦手です。行きたくはない。遊園地のアトラクションは全部メリーゴーランドになればいいと思っているというふうなものない設定もあります。

くま／かわいい。

さく／かわいい（笑）かわいいねえ、美剣くかわいいっ……って感じです。よろしくお願いします。すべての言動を許してあげてください。

GM／お願いします。じゃ、次、水守茉莉ちゃん。

くま／はい。水守茉莉をやる、くまで。この子は何に財力使ってるかっていうので、難病の家族に使ってるって出たので、難病の弟がいます。小さい頃は泣き虫で、泣いては幼馴染に引つ付いていました。この幼馴染が財多美剣くんです。その記憶は自分の中で黒歴史なので、なかったことにしています。6歳差の弟ができたときに「頼れるお姉ちゃんになるんだから！」と言って泣くことは少なくなりました。弟は茉莉が8歳のときに水守家にやってきました。その弟が父の親友の子で、水守茉莉自身も大切に思ってます。昔泣き虫だったことに触れると、「私はそんなことしてない！」って動揺します。たまに不貞腐れて美剣くん八つ当たりしちゃうたりもします。

さく／かわいい。

くま／弟が難病に苦しんでいて、小さな頃から「痛いのが嫌だ」と泣いていたので、痛みを嫌っています。チームメンバーにも弟にも、「怪我をしてほしくない」とか「傷つかないでほしい」と思っているので、回復薬を持ち物として常に持っています。二人が前線で戦ってくれるので、迷宮探索前にはいつも「どうか怪我をしないように」とお祈りしています。ちなみにそのことは二人には話していません。お調子者の美剣をちよつと宥めたり、「もう調子乗らないの!」と言ったりしています。

さく／かわいい。

くま／そんな感じの子です。あとはセッション中にキャラ設定変えることがあると思います！

さく／わかる。そうなるよね。

GM／では最後、イレーネさんお願いします。**あいろん**／はい。イレーネ役をします、あいろんです。イレーネっていうのは、まず、イレーネさん傭兵なんですけど……ハンドルネーム？ イレーネっていうのは本名じゃなくてハンドルネームみたいな自分で考え

た名前です。まずなんで傭兵になったかっていうのは、まあ過去いろいろあったんですけど……そこらへんは置いておいて。とにかく、悲しむ人をこれ以上出さないようにとか、なんかそんな感じの正義感？ 正義感じゃないけど、ヒーロー的なノリで多分なりました。戦争をなくすためになつたって感じです。傭兵っていうのがあんまり理解してなくて（笑）あの、傭兵がそもそも戦争に出向く人っていうのも調べて後から知ったんですけど（笑）多分行きたくないので行つてません。なんかほんとに、そこら辺緩く考えてたので、ヒーロー的なノリだと思います。傭兵。適当に捉えてください、傭兵。見た目からわかる通り、ちよつと人と絡んでこなかった人生なので、結構距離感が本人自身つかめてない感じがします。犬が苦手です。犬と戦争が苦手です。**GM**／おつけー。みんななかなか、長々と話してくださって（笑）これでね、キャラの認識も深まるんじゃないかな。はい、じゃあ、シナリオ迷宮デイズの導入を始めさせていただきます。

くま・あいろん／はい。

GM／はい、よろしくお願いします。

さく・くま・あいろん／お願いしますーす。

GM／あなたたちは迷宮屋と呼ばれ、いたるところに出現する迷宮を日々攻略している。迷宮は、人がたくさんいる学校や繁華街でもお構いなしに発生する。さっきまで普通だった建物や地形がいびつに変化し、多くの人が中に取り残されてしまうのだ。いつしか人々はこれを、「迷宮化現象」と呼び始めた。あなたたちはより効率よく安全に探索を進めるために、パーティーを組み活動している。たまにイレーネの家へと集合しては、情報収集や作戦会議、はたまたのんびりとした時間を過ごしていた。今日この日も集まる予定がある。そろそろ彼らもやつてくるだろう。……ということで、こちら一応イレーネさんのお部屋として用意したんだけど、多分もうちよつと小さくてアパート感のあるお部屋かなと思うので、そこらへんは補填して考えてください。今イレーネさんってお部屋で何しているとか想像つく？

イレーネ／迷宮行く前ってことですよね？

GM／迷宮というか普通に日常生活を。これから二人が遊びに来るんだなって感じで。

イレネ／遊びに来る……このあと迷宮行くわけじゃないんですね？

GM／ないないない。これは普通に、一幕**イレネ**／あー、じゃあその迷宮の下調べとか。

GM／うんうん。まあ、そうだな。仕事……迷宮って結構、外部から仕事が入ってくる感じだから、これに限らず他のいろんなね、どんな迷宮が今発生してるのとか、他のところが発生した迷宮の情報を調べてる、って感じになるかな。

イレネ／そうですね、全体的に把握しておきたいと思います。

GM／じゃあパソコンとか見てるんだね。そういう風にいろいろ情報収集をしているイレネさんの所に、「ピンポーン」とインターホンが鳴ることでしょう。普通にお二人が遊びに来たんだろなという感じなので、そこからロールプレイをしてよろしいですよ。

財多 美剣・水守 茉莉／はい！

財多 美剣／ピンポーン。イレネさんいら

つしやいますかー？ 遊びに来ましたよー。**イレネ**／あ、二人かな？ 来た。

水守 茉莉／こんにちは。突然お邪魔してすみません。

イレネ／いえ、えつと……計画的に集まってるのかなこれは？

GM／うん、計画的だと思う。

イレネ／ゲリラで来たわけじゃないよね。**GM**／ゲリラで来たかったら来てもいいよ。

水守 茉莉／ゲリラがいいな！

イレネ／ゲリラがいい？ マジ？ じゃあゲリラで……何？ ど、どうしたの？

水守 茉莉／いやーもう美剣が来たと言って、仕方がなかったんです。ほんとすみません！

イレネ／はい……（笑）

財多 美剣／まあまあまあ、なんとなくね。家の前を通り……。

イレネ／遊びに来るって……。

財多 美剣／あはは。まあいいじゃないですか。なんかいろいろあるし、イレネさんの家。

イレネ／いやあ、まあ……。

財多 美剣／じゃあ、お邪魔しまーす。あ、これお菓子ね。どうぞどうぞ。

イレネ／はあ、ありがとう。そういうことはちゃんとしてるんだ。

財多 美剣／じゃあなんだろ、じゃがりことか、チョコパイとか持って、渡してきます。

水守 茉莉／茉莉はなんだろう、しっかりした菓子折り持ってきます。

イレネ／さすが。あ、茉莉、弟さんどう？

水守 茉莉／ああ、えつと、またやっぱり関節とかが硬くて痛かったみたいで泣いてました。早く治るといいんだけどな……。

イレネ／そっか、そうだな……。

水守 茉莉／やっぱり難病って特効薬がないから、治すのって難しいですよ……。

イレネ／ああ……まあでも、茉莉がこうやって頑張ってるから、きつと大丈夫だよ。

水守 茉莉／ありがとうございます……！

これも、イレネさんと、それと美剣も頑張ってくれてるから、二人がいるからこうやって迷宮探索もできてるんです。ほんともう感謝しかないですよ！

財多 美剣／ふふん。そうだよー、茉莉は

僕に感謝しかないよねー。

水守 茉莉／調子乗らないの、もう！

財多 美剣／いいじゃん、だって本当のことだし。

水守 茉莉／そうだけど！……ありがとう、感謝はしてるよ。

財多 美剣／どういたしましてー。

イレネ／相変わらず仲がいいな。

水守 茉莉／仲良くないですよ！もう、この子が調子乗ってるだけです！

財多 美剣／ははは。まあまあまああ(笑)
僕のことはどうでもいいじゃない。とりあえず、こんな廊下で話してるのもあれですし、ちよつと入れてください。

イレネ／ああ、いいぞ。

水守 茉莉／ほんと美剣ったら厚かましいんだから。

財多 美剣／はは。いいじゃん、だって1年くらい一緒にいるんだしさ、なんだかんだ。迷宮とかも、解決しちゃったりして？ ヒーローに、なっちゃったりして？ ねえ、そんな仲間だから別にいいじゃん。てことで、失礼しまーす。

イレネ／えつと、ほんとに何しに来たん
だ？

水守 茉莉／まあ、元気な様子を見に？

イレネ／ああ、私の？ ああ……。

水守 茉莉／イレさんあんまりなんか料理とかしてるイメージ無いか、ちゃんと栄養摂ってるかなって、ちよつとだけ心配してるんですよ？

イレネ／あはは、茉莉、年下だけどちゃんとしてるな。お母さんみたいだ。

水守 茉莉／ふふ、そうですかね。頼れるお姉ちゃんって感じしますか？

イレネ／うー……うん、そうだな(笑)

水守 茉莉／につこにこしてます(笑)

財多 美剣／イレさん聞いてくださいよ。こいつ昔めっちゃ泣き虫で、俺にめっちゃ……

(笑)

水守 茉莉／ちよつと、話さないで、もう！ そんなことなかったから！ 妄想でしょ！ 絶対！

財多 美剣／妄想かなあ？ いやああの時は……。

イレネ／まあ、まあ、そうだ、集まったん

だから次行く迷宮の話でもしないか？

水守 茉莉／あ、そうですね。

財多 美剣／ねー。

GM／……はい。そんなことをね、リビングで話していると、「ことん」と玄関の方から小さな音が聞こえました。どうやら郵便受けに何か入れられたようだ。見に行きます？

水守 茉莉／そうだ、聞き耳とか無いんだ……。

GM／そうだよ、ないよここには。聞き耳も目星もない、何にもない！

水守 茉莉／わー。

イレネ／うわー。

GM／すべて自動処理で。

水守 茉莉／聞こえてるんだ……。

GM／聞こえてるよ。

水守 茉莉／じゃあ……イレさん何か宅配便とか頼んだんですか？ 何か音が聞こえたような気がするんですけど。

イレネ／ん？ なんだろうな。ちよつと見てくる。

水守 茉莉／あ、じゃあ私もついて行きまーす。

財多 美剣／じゃあお菓子食べて待ってます。

水守 茉莉／ちらっと美剣を睨むかな。

GM／はい。じゃあ郵便受けに行った2人中に小さな封筒が入られていることに気づくでしょう。

イレネ／ほお。

GM／えー……開けちゃっていい？

イレネ／あ、はい、開けます。

GM／開けてみるとそこには、「10月21日午前11時　会場…有明館　貴楽部雪様生誕祭」と書かれた人数分の招待状と、紙の切れ端が封入されています。じゃあ、茉莉ちゃんとイレネさんは、2D6＋【探索】を振ってください。

水守 茉莉／はい。(ころころ)出目が5、

【探索】が3で合計8。

GM／あ、成功値は9ですね。

水守 茉莉／あつ、失敗した……！

イレネ／(ころころ)出目が7、【探索】が2で合計9。

GM／あつ、えらい。はい、成功したイレネさんは気づくでしょう。「貴楽部雪」、この

名前は最近都市開発に力を入れている貴楽部財閥の一人娘だ。情報誌やニュースで取り上げられているところを何度も見たことがあるなあ、と思うと思います。
イレネ／ふーん。……えっと、こちらへんでやるってことですね、その生誕祭なんかが。

GM／そう……ですね。こちら辺……。

イレネ／あ、遠くでも普通に入ってきた？

GM／遠くでも普通に入ってきましたね。

イレネ／あら、なるほど。……あー、この名前聞いた事あるな、確か。なんか、よくわからないけど有名な人。

水守 茉莉／よ、よくわからないんですか。

へえー……。

イレネ／まあ、あんま興味ないから。

水守 茉莉／んー、まあじゃあ、その、戦争とかやってる人ってわけじゃないんですよね？

イレネ／うん、多分そうじゃないかな。生誕祭……興味ある？　茉莉。

水守 茉莉／いやまずこういうのって知り合いに送るんじゃないですか？　ちよつと

怪しいなあつて。

イレネ／ああ、確かに。知り合い……いや、いないはず。そうだよ。

水守 茉莉／わかんない、美剣が知り合いだったりするかな。

イレネ／ええ？　美剣に送る？

水守 茉莉／美剣！　美剣く！

財多 美剣／んー？　何ー？

水守 茉莉／貴楽部マリって人知ってるー？

財多 美剣／貴楽部マリ？

GM／貴楽部雪。

水守 茉莉／あつ、雪だった……(笑)　マリって言っちゃった……(笑)

GM／ふふふ(笑)

財多 美剣／知らないけど。誰それ。

水守 茉莉／いやなんか、私たち3人に招待状が届いてるんだけど……。

財多 美剣／えー、なんの招待状？

水守 茉莉／えーっと、誕生日だったかな？

財多 美剣／誕生日？　誕生日会？　へえ、そんななんか、有名な人知り合いにいたっけなあ。いたらちゃんと覚えてるはずなんだけ

ど。いませんよ。

GM／ふふふ。知ってるよ、いないよな。ちなみに紙の切れ端が一緒に同封されておりますね。

イレネ／あー、それもなんか調べられる感じ？

GM／うーん、いや、普通に見れば……見る？

イレネ／あ、はいじゃあ見ます。全部、3つ見ます。

GM／紙の切れ端には本当にただ一言ですね、「助けて」とだけ書かれています。

イレネ／おわあ……。

水守 茉莉／助けて……。

財多 美剣／なんて書いてあるんですかー？

イレネ／たす、けて……。

水守 茉莉／これって遠回しな依頼ってことでしょうか？

イレネ／あー。依頼……うーん。「助けて」か……。

水守 茉莉／でもまあ、迷宮屋の私たちに送ってくるくらいですし、それに初対面ですし

……助けられるなら私助けに行きたいです。

財多 美剣／じゃあ僕も行くかなー。

イレネ／そうだな、誰かが困ってるのに助けないわけには……。

GM／うーん、みんないい子だねえ。

イレネ／ふふつ（笑）なんか空から聞こえてくる（笑）

GM／ふふふ（笑）

水守 茉莉／天の声が！

GM／天の声が（笑）……じゃあ皆様行くというこで。

財多 美剣・水守 茉莉・イレネ／はい。

GM／はい。じゃあ……

水守 茉莉／あ、貴楽部雪さんについて事前に調べられたりってしますか？

GM／あー、うん、いいよ。今パソコン開いてるんだろ。じゃあまあ、そうだな、パソコンで貴楽部雪の名前を調べてみた。一番初めに出てくるのは貴楽部財閥の名前だろう。そこはいくつもの子会社企業などを持つたとても大きな財閥だということがわかる。貴楽部雪はその一人娘だ。父親の貴楽部シゲオの仕事を手伝い、次期社長として推薦さ

れているといった情報が載っていることでしょう。

水守 茉莉／了解です。

イレネ／はい。

財多 美剣／了解しました。

GM／まあなかなか……お偉いお嬢様といったところですかね。

イレネ・財多 美剣／はい。

GM／じゃあ、日常ルールがよろしければ、先に進んでいいですか？

水守 茉莉／大丈夫です。

GM／じゃあ、10月21日午前10時半、あなたたちは趣のある巨大な洋館、有明館へと訪れた。周囲には華々しい服装の男女であふれており、いかにも裕福な身分であることがうかがえる。招待状を見せて中に入ると、ずらりと並んだ美味しそうな料理が目に入ることだろう。……えつと、お部屋ー！ はい！

水守 茉莉／おおー！

GM／まあ、大広間に通されたかな。周囲を見渡したり、ロールプレイをしたりどうぞ。

イレネ／これはあれですかね、やつば高校生2人は制服で来てるんですかね（笑）

GM／そうですね、いや、「誕生祭なら正装だろー」と思って制服で来てるかもしれないし。ドレスとか持つてる人はそういった格好で来てるかもしれない。

財多 美剣／はいはい……制服かなあ。持つてないから。

水守 茉莉／まあ……そうだね、制服かなあ。
イレネ／戦闘服で来たと思います。

財多 美剣／やばいやばい（笑）

GM／ちよつと周りからは浮いてるかな。やっぱり高貴な方々が多いのですね。

財多 美剣／面白すぎる（笑）

イレネ／持つてないってそんなのイレネちゃん！ 持つてないし知らなかったんじゃないかな。

財多 美剣／生誕祭……服……まあ普通のでもいいなってなったんじゃないか（笑）

イレネ／「助けて」って書いてあるんだから戦闘服で行くだろうって。

GM／うん（笑）

イレネ／助けに行かないと。

水守 茉莉／なんか私たち、服装場違いじゃないですか……？

イレネ／みんな綺麗な服着てる……。

水守 茉莉／さっきからチラチラ見られてるような……。

財多 美剣／こういうのは気にしたら負けだから。逆に堂々と行けばどうにでもなる。
イレネ／あんな服着てたら戦えないだろ。そもそも。

財多 美剣／生誕祭に来てるので、戦うために来てるんじゃない……（笑）

イレネ／私は助けに来た。

財多 美剣／まあ、そうですね。イレネさんはそうですね。

イレネ／うーん、なんか、なんとも助けてという雰囲気ではないな。

水守 茉莉／でも今日の主役が貴楽部雪さんなら、ステージの中央に座つてたりしないですかね？ 誕生席みたいな。

財多 美剣／確かに。いるかなー、どこかなー。

水守 茉莉／きよろきよろ。

GM／まあじゃあ周囲を探してみたということ。そうですね、部屋全体を見渡してみると、天井には巨大なシャンデリア、床には

真っ赤な絨毯が敷かれ、正面には主役が立つであろう大きなステージがあることがわかります。まだ誰も立つてはいないようですね。すでに到着した人々は、知り合い同士で会話を花を咲かせたり、料理を楽し気に選んだりしているでしょう。

水守 茉莉／まだ、いらつしやらないですね？

イレネ／そうっぽい……。

財多 美剣／まあ確かに、最初からいたらかしい。

水守 茉莉／まあそうですね。

財多 美剣／なんかいきなり会場暗くなつて、バツて照明当たつて「主役の登場です！」みたいな、「パチパチパチ！」みたいなやつだろ。どうせ。

水守 茉莉／あ……想像できるかな……。

GM／あつ……ふう……。

財多 美剣／いやあいいなあ、誕生日。

イレネ／何が「助けて」なんだろー？ それで普通に出てきたなら、ほんとに何に困ってるん？ 万屋か何かだと思われてる？

財多 美剣／うーん、もしかしたらあれかも

しれない。間違えたとかいたずらとか。なんか郵便屋さんが何となく「こういうの入れちゃおう！ 紙切れ、ポイ！」の場合とかあります？

水守 茉莉／それはないでしょ、美剣……。

財多 美剣／まあまあまあ、でも今のところ、なんか平和そうなの。とりあえずいいんじゃないですか。場所まだいっぱいありますし、早く食べませんか。これとか、ケーキとかあるし。おいしそう。

水守 茉莉／そんなはしたないことしないんだっいたらいいんじゃない？ あんまり目立つようなことしたら、ねえ、追い出されちゃうかもしれないし。

財多 美剣／そんな僕がそういうマナーに疎いと思ってるんだ？

水守 茉莉／いや、疎いとは思ってないけど、調子に乗りすぎると何やらかすかわかんないからさ、ね？

財多 美剣／ひどい言われようだな。ま、普通に過ごすよ。

GM／はい。じゃあ、まあなんだろう、壁際に立って周囲を見る感じかな。ケーキ……も

しかししたら美剣くんはケーキを食べてるかもしれないけど（笑）おおむね。

財多 美剣／多分食べてます（笑）食べにちよつと、行くかもしれないです（笑）

GM／そうだね（笑）そんなふうに会話していると、あなたたちに声をかける人がいます。そちらの方を見ると、チェック柄のフオーマルベストや、丁寧に磨かれた革靴が目を引き老紳士が立っています。

水守 茉莉／怪しい……！

GM／まあ普通に話しかけてきますね。（老紳士になつて）「いやあ、急に声をかけてすまないね。楽しそうだったから気になつてしまったのさ。君たち、初めて見る顔だが、もしかして雪嬢のご友人かい？」と話しかけてきます。

水守 茉莉／そうしたらチラッと目配せしながら「どうします……？ ここは嘘ついて合わせた方がいいですかね、友達って言うっておきますか……？」って。

財多 美剣／そうだな、まあ、普通に覚えはないけど友達だったんじゃないか？ 友達って言っとけばなんとかなるだろう。

水守 茉莉／う、うーん、まあ、そうする？ でもどうする？ 雪さんのこと聞かれたら全然わかんないわよ私たち……。

財多 美剣／あー、確かに。でも素直に話してもいいんじゃないか？ ダメ？

水守 茉莉／じゃあ、美剣にまかせようかな。

財多 美剣／えー……、まあいいや。イレネさんはどう思います？

イレネ／わ、わからない、どうすればいいか……。

財多 美剣／わからないんじゃないですか（笑）じゃあ、老紳士の方に答えを。……あー、なんか、僕たちのところに貴楽部雪さんから招待状が来て。身に覚えがないんですけど、でももしかしたらお名前変えたとかで、「貴楽部雪」って名前には見覚えがないんですけど、それで……なんだろう。誰かしらの知り合いだけど記憶から抜け落ちてるとかかなーと思つて、一応顔を見に来ました。

GM／（老紳士になつて）「なるほど……。まあ、雪嬢との知り合い、といったかたちなのかな」

財多 美剣／一応そういうことになります

ね。

GM／「いやあ、余計なお世話だとは思ったんだが、私は雪嬢がご友人をパーティーに招待したところを今まで見たことがなくてね。何か事情があるんじゃないかと心配していたんだよ。まあ君たちは……そうだな、そこまで彼女と関係値も無いようだし、雪嬢にもきつと何か理由があるんだろう。まあ、急に声をかけてすまないね」と、ニコニコ笑っているかな、老紳士は。

財多 美剣／わかりましたありがとうございます……。

水守 茉莉／親切にしてくださいましてありがとうございます。私は水守茉莉です、あなたのお名前を聞いてもよろしいでしょうか？
GM／「いやあ、俺なんてただ招待されただけの一般人さ。まああ、ここに来ている人たちはみんなどこかしらの金持ちだったりするがね」

水守 茉莉／お名前は教えていただけないですか……？ お礼をしたくって。

GM／あー、そうだな、じゃあまあ……んー、特に考えてないんです（笑）

水守 茉莉／わかりました（笑）ちよつと怪しい人なのかなって疑っちゃっただけです（笑）

イレネ／普通に答えてくれるって感じか。

GM／そうですね。まあ鈴木とか山田とか。

水守 茉莉／オッケーです。じゃあ鈴木さんかな。

GM／鈴木さんで（笑）

イレネ／雪嬢とはどういったご関係で？

GM／（老紳士になって）「たまに彼女の父親からこういったパーティーに招待されてね。その時に雪嬢を見かけることが多々あったんだ。彼女はとても聡明な子で、幼い時から父親の仕事に付き添っていたようだから、まあ、見慣れているからとても孫のような存在だと思っているよ。昔はたいそう可愛らしかったが、今はとても美しく成長して、時代の流れは速いものだなあ。はっはっは」と話しています。

イレネ／ほおー。

水守 茉莉／すみません、私たち雪嬢のこと……雪さんのことを全然知らないんですが、いま彼女が何歳ぐらいとか、知ってますか

ね？ 私たちと同じ年くらいですか？

GM／（老紳士になって）「そうだねえ、君たち見たところ高校生と……年齢不詳って感じかな」

イレネ／はい、年齢不詳です（笑）

GM／「今日の生誕祭は雪嬢の20歳の誕生日なんだ。今まで彼女の祝いの席といったものは開催したことはなかったんだけど……まあ、さすがに節目だ。貴楽部現社長も娘の誕生日を盛大に祝いたくなっただろうさ」

水守 茉莉／ありがとうございます。

GM／ほかに聞くことはないかな？

イレネ／ちよつと周りにコソコソします。

……全然雪嬢とやらは困ってなさそうだな。
水守 茉莉／お父様とのご関係が悪いのでは……？

イレネ／そんなことうちに言われても……。

水守 茉莉／もしかしたら、「助けて」というのは、お父様に何かさせられそうになってるから助けて、とか。

イレネ／あー……。えー？

水守 茉莉／例えばステージで一発芸をやれ

と言われたり……。

イレネ／おおう、なるほど……？

水守 茉莉／まあ一発芸は冗談ですけど、そういう風に自分がやりたくないことをやらされそうになるとかじゃないですか？
ご令嬢なら政略結婚とかありそうですね。

イレネ／なるほどな……。

GM／では、そんな風にひそひそ話している皆さんを見て（老紳士になつて）「まあせっかくなんだ楽しんでいきなさい」と声を掛けながら離れていくでしょう。

財多 美剣／ありがとうございますー。

GM／では、時間が過ぎて11時。ホールの端に設置された柱時計がボンボンと鳴り響く。パツとすべての電気が消えたかと思うとステージ上のライトが付いた。そこには美しい女性が立っています。（貴楽部 雪の生誕祭にお越しください誠にありがとうございます。わたくしは今日、二十歳という節目を迎えることができました。育ててくれた父、そして皆さまには感謝の念が絶えません。本日皆様も羽を伸ばし、どうぞ楽しんでい

てください」そう言つて美しい所作でお辞儀をする。彼女が壇上を降りようとしたその時、地面がガタリと揺れた。細胞分裂をするように窓が増えていく。建物のあちこちが歪み、縮み、生き物のようにしなでゆく。美しい洋館は、今や見知らぬものになろうとしていた。あなたたちは知っている。今起こっている現象が迷宮化現象と呼ぶことを。

あなたたちは迷宮化現象に巻き込まれてしまいました。元に戻すことはただ一つ、迷宮支配者に取り込まれている迷宮の核、迷核を壊すことです。それ以外にここから逃げ出す方法はありません。パーティの参加者もどうなるんだとざわめき始めています。

水守 茉莉／じゃあこそそつと、私たちが迷宮屋だと言つて落ち着かせますか？パニックになると余計危ないような気がするんですけど。

財多 美剣／確かにそうだね。じゃああの壇上に登って行くぞー、えー茉莉の手を引っ張ります。

水守 茉莉／うわあ！ 恥ずかしい思いするならイレさんも！ と言つて連れてくかな。

イレネ／ええ、えーまじか……！

水守 茉莉／一番説得力のある恰好してるもんな。

GM／確かに。じゃああなたたちは3人手を引っ張られながらね、縄のようにね、なだれ込んでいくんじゃないかな舞台上に。

水守 茉莉／雪さんも大丈夫かなって様子を見たい。

GM／うんうん、雪さんはちよつと衝撃で膝をついてるかな、隣で。じゃああなた達のをパーティの参加者はパツと見上げて、（参加者になつて）「なんだ彼女らは」「そんなことよりこの状況っ！」「あの少女の服装、もしかして迷宮屋か？」と、それぞれ反応を示していますね。

水守 茉莉／やつたぜ。

財多 美剣／じゃあマイクで、みなさんこんにちはー。あの僕たち迷宮屋なんで、この迷宮どうにかしてみせるんで、とにかく落ち着いてくださいー。

水守 茉莉／そうですね、1か所にまとまっていただけとありがたいです。敵が来た時に皆さんを背後にかばえるので。

GM／ではそしたら（参加者になって）「なんだあの少年たち気楽すぎないか？」と話しながら、まあ、迷宮屋であることは事実だろうと思うので、1か所に固まって、まあ少し不安を落ち着けた様子ですね。「お前たち、迷宮屋ならここを探索して解決できるんだよね？任せていいんだよね？」と声が上がります

財多 美剣／もちろんですとも！僕たちはなんとー迷宮屋なんですからー！

水守 茉莉／ちゃんと実績も経験もあります！ ねっイレさん！

イレネ／あ、ああ、みんなは落ち着いて、私が助けるから。

財多 美剣／まあ、大船に乗ったつもりで待つといってもらえると助かります！ と言って、じゃあ、雪さんの方を見るかな。

GM／じゃあまず参加者はそれを聞いて「任せたからな」「早く解決してね！」と声をかけてくるでしょう。気力に＋2してください。

財多 美剣／はい。

イレネ／はい。

GM／では雪嬢ですね、なんかすごいキラキ

ラした瞳でこちらを見ているんじゃないかなー、キラキラー。

イレネ／だ、大丈夫ですか？

GM／（貴薬部 雪になって）「あなた達、迷宮屋さんのね！来てくれたんだわ！」と言って、手をガシツを鷲掴まれて、きやつきやしますね。

水守 茉莉／じゃあちよつと苦笑いするかな。

イレネ／えつと、この助けてって言うのを招待状に同封したのは、雪さん？ で合ってる……？

GM／「あー……うんそうね、その話はここでするべきではないわ。それよりあなた達これからこの迷宮を探索するのでしょうか？」

イレネ／ああ、そうだな。

GM／「だったら私も連れてってほしいの！ ねっお願い！」

イレネ／えつ、いや、そんな迷宮屋じゃないのにそんな……。

GM／「あら、私じゃ役不足というのね。まあ言ってることは分かるけど、危険を承知でもついでいきたいと言ってるの。それにこの有明館は貴薬部家、私の父の所有物よ。何度

も連れてきてもらったことがあるから、必ず役に立つことを約束しましょう。足手まといかもしれないけど、どうかお願い、私も連れてって」みんなに目配せというかチラッチラッて、イレネさんと茉莉ちゃんの顔も見ながら。

財多 美剣／どうしますイレさん？

イレネ／どうしよう、いやできればついてきてほしくないが……みんなと一緒にいた方が安全だろうし……。

財多 美剣／そうですね、でもここらへんの地理分かるのはこの方なんじゃないですか？

イレネ／そういうことだよな、この地図というか、構造を教えてくださいってことだよな。

財多 美剣／その分早めに迷宮を解決できそう、だけど、一般人を巻き込むのは、ちよつと……。あんまりイレさんも茉莉も嫌ですよね。

イレネ／早く解決できるのは魅力的、か。

財多 美剣／そうですね。

GM／みんながまごまごしているのを見て、

雪ちゃんが「……ふーん、ここは貴樂部家の所有物なのに、迷宮化していると言ってもここをあなた達に勝手に歩かせるわけにはいかないわ。わかるわよね？」みたいなことを言ってくるかな。

イレネ／結構強気やな（笑）

財多美剣／めんどくさそうですよこの女性。連れてった方がいいんじゃないですかね。

水守茉莉／ま、まあそうですね。

財多美剣／じゃあ、貴樂部雪さん、ここら辺案内するのに一緒に来てもらえませんか？

GM／「本当？物わかりの良い迷宮屋さんで助かったわ！さあ行きましょう！」って意気揚々とみなさんを引っ張って。

財多美剣／危ない真似はしないでくださいな。とだけ。

GM／「わかつてるわよーそんなこと」

財多美剣／わかつてるならいいんです。

水守茉莉／先頭は危ないので私と一緒に後ろ歩きましょう？

GM／「ええ！迷宮屋にあなたみたいな可愛い女の子がいてうれしいわ」

水守茉莉／お世辞でもうれしいです、ありがとうございます。

財多美剣／じゃあ茉莉は貴樂部さんを頼んだ。

水守茉莉／わ、分かった。

GM／「まあ、いざとなったらその強そうなお姉さんが戦ってくれるってことでしょ？力強いわ！」

イレネ／ああ、そうだな私が守るから大丈夫。

財多美剣／ちよつと僕が居るのを忘れてもらっちゃ困るんですけどー。

イレネ／いや、そんな話をしている場合じゃないんだ。

財多美剣／そうだそうだ。さっさと行かないと。

水守茉莉／雪さんはどこら辺に行くのがおすすめだと思えますか？私たちは知らないで。

GM／「そうね、まずこの広間を出たら皆さんが通ってきた玄関口があると思うわ。ここから左右に扉があるから、まずはそこを目指しましょう」って言って大広間の出口

を指さすかな。

水守茉莉／分かりました。二人もそれでいいかな？

財多美剣／ああ、そう言うなら行こう。

水守茉莉／じゃあ行きます。

GM／はい、ではこの大広間を出た先には来るときも通った玄関ホールがある。迷宮現象の影響で空間が異様な長さに伸び、玄関扉は遠く離れた場所に移動していた。ここからでは米粒程度の大きさにしか見えない。玄関の他に両側に扉が一つずつあるのが分かる。（貴樂部雪になって）「すごい、お部屋がこんなに伸びるなんて。あつ、でも、部屋の配置は変わってないみたいね。右に見える扉が食堂の入り口。奥には厨房もあるわ。左の扉は小ホールよ。あの部屋には二階に続く階段があるの」

財多美剣／どうする？厨房と二階への扉だつて。

水守茉莉／まずは一階の皆様を残しておくのも危険ですし、一階の安全確保から行きませんか？

イレネ／そうだな、食堂にまだ人がいるか

もしれない。

財多 美剣／確かに、じゃあ食堂から行くか。
じゃあ。

GM／はい、開けたね？（笑）

財多 美剣／怖い怖い（笑）

GM／大広間ほどではないものの十分広さのある部屋で、厨房に続く扉はすでに開いている。中央には巨大な長机が置かれ、貴族の食卓を思わせた。その机の片隅には、この空間には似合わない小鬼が三匹、厨房から持ち出してきたであろう食材を山盛りに積んで貪っている。天井には、頭が大きくコウモリのような羽をもった生き物が飛び回っており、迷宮屋に気づいたモンスターは奇声を発しながら突撃してくるでしょう。戦闘です。ではまず、先攻後攻決めをするので、パーティーから代表一人選んでいただいて、才覚で行為判定します。

水守 茉莉／才覚2です。

財多 美剣／5です。

イレネ／じゃあ美剣だ。

GM／で達成値は、敵の中で最も高い回避値なので7です。

財多 美剣／2d6+5（ころころ）

水守 茉莉／お、11！強い。

GM／じゃあ皆さんが先攻で、こいつらが後攻になります。次、攻撃のターンですね。順番は好きでいいんだけど、まあ財多くん、水守さん、イレネさんの順番でやっていいかな。まず財多くん、武器の決定と目標決め、でそのあと命中判定をしてダメージを出します。

財多 美剣／武器は大剣で、小鬼1にします
GM／2d6+武勇で命中判定かな、達成値はモンスターの回避値（今回は3）になります。

財多 美剣／はい【命中判定】2d6+3
（ころころ）12！大剣の【ダメージ】1d6振ります（ころころ）5！（笑）

GM／さすが、じゃあその一撃で小鬼1は悲鳴をあげながら消滅しますね。

財多 美剣／思ったより弱いぞ大丈夫じゃん。

GM／はい、次、茉莉ちゃん。

水守 茉莉／だんびらなんですけど判定なしなのでそのままダメージですか？

GM／あ、じゃあいいよー目標だけ。どいつ

に攻撃する？

水守 茉莉／じゃあ、敵減らした方がいいよね、小鬼2で【ダメージ】1d6（ころころ）6！

GM／みんな出目良くね？ギエーと叫び声をあげて小鬼は消滅しました。次イレネさん。

イレネ／多分イレネが一番攻撃弱いぞ。うちが回避値高いやつ殺した方がいいよね、じゃあ上の飛んでるやつ（回避値7）に、持ち前の鎌でいきます。【命中判定】2d6+5（ころころ）11。

GM／じゃあ当たります。そしたらダメージ。
イレネ／【ダメージ】1d6（ころころ）4。

GM／そしたら、少しふらつきを見せますが、まだ空はバタバタと飛んでいますね。次、モンスターのターン、まず、【目標決め】（1d3）美剣さんですね、【命中判定】2d6+1（ころころ）7、回避値どんぐらいだっけ。

財多 美剣／回避値……10ですね。

GM／じゃあ当たりませんね。じゃあ次、鳥【目標決め】（ころころ）茉莉ちゃんに、【命

中判定】2d6+3（ころころ）9、あ、ギリ当たってない。

財多美剣／よかったー

GM／次、美剣くんのターン。

財多美剣／じゃあ、飛んでる方に大剣で【命中判定】2d6+3（ころころ）12、【ダメージ】1d6（ころころ）3

GM／あー、惜しい。もう翼も動かなくなつて、動きもぎこちないですがギリ生きてますね。

水守茉莉／じゃあ、その弱ってる方に対して、【命中判定】2d6+1（ころころ）4、あ、当たらない……。

GM／あ、茉莉ちゃんの攻撃は宙をスカッと切り、だんびらはその辺の椅子とかに突き刺さりました。

財多美剣／茉莉無理すんなよー。

水守茉莉／私だつてこのくらいできるはずだったの！ ちょっと飛んでるから外しちゃうただけで！

財多美剣／まあまあ、後ろに下がってればいいんだよ。茉莉は。

水守茉莉／うう、分かった……。

GM／はい、イレエネさん。

イレエネ／飛んでるやつにやります【命中判定】2d6+5（ころころ）11、【ダメージ】1d6（ころころ）4

GM／そしたら飛んでる敵はもう動かないようで、床に追突した後、しゅわしゅわと消えていきました。じゃあ小鬼3のターン【目標決め】イレエネさんに【命中判定】2d6+1（ころころ）5、当たらないね。

イレエネ／いいぞー。

GM／よし美剣いけー！

財多美剣／大剣いきまーす【命中判定】2d6+3（ころころ）8、【ダメージ】1d6（ころころ）6

水守茉莉／お強い。

イレエネ／出目高い！

GM／みんな偉い！小鬼は消えていきました。初戦は終了です。雪ちゃんの後ろの方で

「わーさすが迷宮屋さんお強いわ！」ってばちばちしてますね。まあ、そうですね、食堂はもうあいづらのせいだとつちらかっちゃってて、どうしようもないですね。厨房への道も扉は空いているので。

財多美剣／思ったより最初から敵いっぱいでしたね。

イレエネ／そうだな、元から人がいなかったならよかったのだが。

財多美剣／そうですね、多分人気はなさそうなので、ちゃんと逃げてホールの方に行つたのでしょう。

イレエネ／ああ、よかった。

水守茉莉／三人とも怪我はしてないですよ、大丈夫ですよ？

財多美剣／ん、してない。

イレエネ／大丈夫だ。

GM／「ええ、私は大丈夫よ」

水守茉莉／よかった、ちゃんと怪我したら言うのよ？特に美剣！

財多美剣／いや、言ってなかったことあったっけ？

水守茉莉／いやなんか怪我しやすそうだなって思ったから。

財多美剣／まあ心配してくれるのはうれしいけどさ……そんなへましないから。僕たち

水守茉莉／うーん、まあそう？

財多美剣／茉莉の方こそ前線に出て外して

たじゃん。

水守 茉莉／外してないもん、ちゃんと椅子に当たったもん、椅子に当たって驚かそうとしてただけだし？

財多 美剣／はいはい。

イレネ／まあそこらへんにして厨房に行こう。

財多 美剣／はい。

水守 茉莉／はい分かりました。

GM／「あなた達仲がいいのねー」って笑ってるかな。そしたら厨房ですね、厨房内にはいたるところに食材が散らばり、置かれている家電はほとんど壊れている。唯一冷蔵庫は動いているようだ。

財多 美剣／お、冷蔵庫は動いてそうですよ。開けてみます？

水守 茉莉／それで中にモンスターが入ってたらどうするの？

財多 美剣／そんなちっちゃいモンスターなんてそうそういないでしょ。

イレネ／攻略に関係ないものはあんま触らない方がいいんじゃないのか。

財多 美剣／うーん、じゃあ貴楽部さんこの

冷蔵庫開けていいですか？

GM／「ああ私は構わないわよー」

財多 美剣／じゃあ開けちゃおうばかー。

GM／では開けるとガタンと扉は外れちゃうでしょう。ほとんどが食い荒らされていてますが、隅にはお弁当が残されており、冷蔵庫が動いていたおかげでまだ腐ってはいないようだ。賄い弁当だろうが、簡素な作りでもおいしそうだ。美剣くんお弁当＋1

財多 美剣／わーい。

水守 茉莉／安心だー。

イレネ／ありがたーい。

GM／厨房はこの程度ですね。他にはなさそうかな。ボロボロだな、って感じ。

イレネ／じゃあ人もいないみたいだし向こう側行こうか。

財多 美剣／はい。

GM／はい、じゃあとりあえず、玄関ホールに帰ってきて、「左側は小ホールがあるけどもう向かう？」

水守 茉莉／そうですね、早めに行った方が皆さんも安心できますよね。

財多 美剣／じゃあ向かうかー。

GM／はい、小ホールに向かうとそこは、どこかのオフィスとなっていた。どうやら空間が歪み別の場所と繋がってしまっただけ。オフィスの奥には二階に続く階段があります。部屋の中にはパソコンがずらりと並び、そのうちの一つが起動していることに気づくでしょう。

財多 美剣／あー、ホールじゃないね、これ。

水守 茉莉／どう見てもオフィス……。

GM／「あれー？ホールのはずだったんだけどなーおかしいなー」

財多 美剣／まあ迷宮だから……迷宮ってそんなこともよくあるんですか？

GM／迷宮はあります。たまに変なところに繋がる事。

財多 美剣／了解しました。じゃあ迷宮だからまあ、そういうこともあるでしょ。

GM／「へえー、やっぱ迷宮屋さんは不思議な経験を沢山なさっているのね。なんかすごいわー」

財多 美剣／まあそういうことになりましたねー、基本的に危ないので普通の人はやりたがらないですけど。

水守 茉莉／じゃあそんな話をしている後ろでイレネとこそそします。イレさんこれ雪さん連れてきた意味ないんじゃないですか？

イレネ／確かに構造が変わってたら……まあ一応食堂を先に確認できたし意味はある、のか……？

水守 茉莉／まあそうですかね。

イレネ／戦い中に茶々を入れてくる感じはなかったし、まあ、大丈夫じゃないか？

水守 茉莉／雪さんが怪我しなければ、もうそれでいいです……。遠い目してる。

イレネ／私は後ろ見れないから、茉莉頼んだ。

水守 茉莉／分かりました、イレさんの役に立って見せますから！キラキラ。あ、茉莉は割とイレさんに懐いてる感じです（笑）

イレネ／なるほど、じゃあそのキラキラな目が苦手って感じか。おつ、つて感じ。

水守 茉莉／そうだね、懐かれるの苦手なんかもね。

イレネ／うん。犬（笑） そう、パソコンが一個ついてるんだっけ、人がいないか見ながら

らパソコンに近づきます。

GM／じゃあそうですね、パソコンを見に行きました。パソコンには迷宮に関するサイトが表示されているようだ。待ってね……。

迷宮に巻き込まれた際の対処法。基本的に一般人は、迷宮内を歩き回ることができません。

「迷宮性前庭失調（めいきゅうせいぜんていしつちよう）」にかかってしまうからです。

これにかかると方向感覚が狂ってしまい、まっすぐ歩くことすら困難になります。対処法は、迷宮屋と一緒に行動すること。彼らはみんな耐性を持っているため、巻き込まれた際は彼らの到着を待ってから行動しましょう。

他にも、迷宮に心が囚われて眠りから醒めなくなる「迷宮性ネバランド症候群（めいきゅうせいネバランドシンドローム）」という珍しい症状もあり、まだ症例が少なく治療方法が確立されていません。数百万人に一人の珍しいものですが、巻き込まれた時のために覚えておくのと良いでしょう。

と記載されています。

財多 美剣／はい。

水守 茉莉／へー。

GM／まあみんなでパソコンを覗き込んでる形だと思うからみんなこれを知ったという感じですかね。

財多 美剣／あ、元から知らなかった、元々知ってはいなかったんですか？この3人は。

GM／うーん、知識があれば普通に知ってると思う。

財多 美剣／あー、了解です。

GM／うんうん、まあ一般常識に加えてちょっと珍しい情報って感じ。

財多 美剣／はいはいはい、了解しました。そういえば、貴楽部さん迷宮歩いてて平気なんですか？

GM／（貴楽部になって）「うん」

イレネ／迷宮屋と一緒にだから多分大丈夫。

財多 美剣／いやでも真っ直ぐ歩くことすら困難になるし。

GM／「そうね。本当は迷宮屋じゃないとこういった風に歩き回ることではできないんだけど、でもそれはあなた達と一緒にいれば解決することなの。あなた達は元々耐性を持っているこの空間を好き勝手歩き回れるでしょう。それにくっついて一緒に行けば、基本

的な人間……そうね、まあ、あなた達が見れる範囲の人数ならこうやって一緒にについて行くことも出来ると思うわ」

イレネ／これ、大広間にいる人たちは大丈夫かな。

GM／「うん、まあ歩き回らなければ基本的に迷宮で害が起ることはない」と聞いているから、大丈夫だとは思うけど」

イレネ／大丈夫かなあ。

GM／「心配？ 見に行く？」

イレネ／めっちゃハラハラしています、イレネ。大丈夫かっていう。

水守 茉莉／でもどうして迷宮についてこうやって調べてあるんでしょうか？

イレネ／うん、確かに。

水守 茉莉／自分が迷宮に巻き込まれるかもしれないって思ってたならわかるんですが。そういうのって事前に知ることできましたっけ？

財多 美剣／まああれじゃないか？ 地震が起きた時のために非常食を用意しておくように、迷宮に巻き込まれた時の際に困らないように調べておいたちゃんと頭の回る人だ

った、ってことじゃないか？ 普通に考えて。それかもしくは、この会社が迷宮に関する何かを調べているとか、そういうことをビジネスにしようとしている会社だったっていうことぐらいじゃない？

水守 茉莉／そうだといいんだけど、なんか都合が良すぎるなって思っつて。

財多 美剣／そう、まあ、そういつたところもなんか。よくわかんないけど、迷宮に組み込まれちゃっただけだと思うけど。

水守 茉莉／まあ考えても仕方ないしつか。

財多 美剣／そうだぞ。あんま考えすぎてもね。どうにもならないことはどうにもならないし。

イレネ／うんと雪さん。

GM／（貴楽部になって）「ええ、何かしら？」

イレネ／その、この館は何階まである？

GM／「ああ。そうね。今あそこに階段が見えるでしょ？」

イレネ／ああ、うん。

GM／「あそこの階段を登った部屋で全てよ。まあつまり2階建てね」

イレネ／ああなるほど。うん。

GM／「空間は広いけれど、高さはそれほどない建物だから。まあ、洋館にしてはこぢんまりとした館よね」ってケラケラ笑ってます。

イレネ／うん。まあ、パーティーに来た人たちも心配だけど。空間が歪んでいなければすぐ終わるから。さっさと攻略してしまおう。

水守 茉莉／そうですね。わたしも一般人が心配です。

GM／じゃあまあパソコンからは離れたかな？ 今。

財多 美剣／はい。

GM／はい。そしたら皆さんがパソコンから離れようとした時、ドンと大きく揺れて床が歪み始めました。どうやら部屋が変形しているようだ。2D6+武勇を振ってください。

成功値は9です。

水守 茉莉／9か。

財多 美剣／9か。

イレネ／高い。

財多 美剣／（ころころ）2d6+3で8。

ああ、ダメや。終わりや。

水守 茉莉／あつ。2d6+1で9。

イレネ／2d6+5で10。

GM／あつえらい。

財多 美剣／みんなさよなら。

GM／そんな死なないから。

水守 茉莉／じゃあ雪さん、一緒にギュって引き寄せます。

GM／おつありがとう。キャツて悲鳴をあげて「あ、ありがとう」って言います。

水守 茉莉／大丈夫ですか？

GM／（貴楽部になって）「ええ、迷宮はこんなことも起こるのね。なかなか心臓に悪いわ。守ってくれてありがとう」

水守 茉莉／いいえ。

GM／はい。

イレネ／美剣がぶつ倒れる感じですか？

GM／あ、はいじゃあ成功した人は、机とかにしがみついてその場に留まることができました。失敗した美剣くんは反動で大きく跳ね飛ばされ、床に背中を打ち付けるでしょう。はい、1D3のダメージを振ってください。

財多 美剣／はーい、可哀想に。

GM／痛いねえ。

財多 美剣／1D3。2。

GM／はい2減らしといてね。

財多 美剣／はーい。よし、えっと回復アイテムってなんかあったっけな。お弁当2個あるみたいだな。よし見よう。

イレネ／全員回復だから。

GM／そうなんだよね。

財多 美剣／あー、全員回復？

イレネ／うん。

財多 美剣／じゃあまだいっか。

水守 茉莉／あそっか回復薬は自分のHPか？

GM／そうなんだよね。でも勇者はスキル使えばなんとかなるし。まあ、あの術師はまあアイテムをいっぱい持つてるんだけど、イレネさんが何もなくて。

イレネ／何も無くて。

GM／何もなくてちよつと心配。

水守 茉莉／大丈夫？フルコースを振る舞いますか？

イレネ／イレネは背中預けてるもう。

GM／はい、じゃあ飛ばされた美剣くん。その足元に小さなメモ帳が落ちていることに

気が付きます。おそらく今の衝撃で机の下にあったものが出てきたのだろう。見ますか？

財多 美剣／見ます。

GM／はい。えー、じゃあ美剣くんだけが読めるのかな。

財多 美剣／とりあえず、とりあえず美剣だけね、見ます。

GM／よいしょ。長年放置されていたのでしょう、とてもほこりをかぶっています。あなたは埃を払ってパラパラパラとめくってみると思います。

最近の貴楽部社長はずつと気難しい顔をしている。秘書として何年も社長のサポートをしていたが、あれほど思い詰めた姿は初めて見た。もしかしたら、雪嬢に何かあったのかもしれない。迷宮屋に多額のお金を渡して何かを作らせているという噂もあつて心配だ。私に何か手伝えることがあればいいのだが……。

と書かれています。

財多 美剣／うわあ、どうしよっかな。イレネと茉莉だけに情報共有をしたいんです

けど、絶対雪が出てくるから……どうしようかな。

水守 茉莉／今雪を捕まえていますから、イレネだけは見れるかも。

財多 美剣／じゃあイレネ、イレネさんちよつと来てください。なんかこれ、いま衝撃があった時に落ちてきたメモなんですよ。見てくださいよ。

イレネ／ほう。

財多 美剣／で、見せます。

GM／まあ、今雪と茉莉は隅っこの方で女子トークでもしてるのかな？ キャツキャツ。

イレネ／うーん。

財多 美剣／なんかおかしかったですか？

イレネ／何かあった？

財多 美剣／今のところ貴楽部雪さん特に変わった様子ないですけど。

イレネ／うん、そうだな。なんか社長が思い詰めてると。

財多 美剣／思い詰めてて、で迷宮屋に多額のお金を渡されましたか？ とか何か。

イレネ／いや、私たち以外のってことじゃないのか、

財多 美剣／いや、でも、どうなんだろうな。

もしかしたら貴楽部雪の招待状みたいな。貴楽部社長さんが送ってきて、いつの間にか口座見てみたら、多額のお金がみtainなこともあるかもしれないなど。

イレネ／あ、最近見てはないけど。

財多 美剣／ほら。まあ、でも何か違うわ。

イレネ／あー、そうだな茉莉にも共有したいけど。

財多 美剣／まあそうだな。

イレネ／雪さんに見られたくはないから。

財多 美剣／じゃあ、イレネさん、ちよつと貴楽部雪さんと話してください。そして僕が茉莉に伝えとくん。

イレネ／ええっと、私が？

財多 美剣／うん。

イレネ／いや美剣くんが行ってきてくれ。

財多 美剣／えっ、仕方ないですね……。

水守 茉莉／茉莉はきつと雪に、この館にこんな場違いなオフィスなんてあるんですねって言うてる。

財多 美剣／はいはい。

GM／（貴楽部になつて）「うーん、この館に

はこんなオフィスはないかなあ」

水守 茉莉／そうなんですか？ ……あ、なあに美剣？

財多 美剣／イレネさんが呼んでるから。

水守 茉莉／あ、分かった。じゃあ雪さん美剣と話してください。美剣になら何言っても大丈夫ですよ。

GM／「えっ、何言ってもいいの？」

財多 美剣／そんなことはないだろ、茉莉……。

水守 茉莉／はい。行ってきました。

財多 美剣／はい。

GM／「みつる君、そのヘアピンかわいいね。あ、うんかわいいね」

財多 美剣／なんで2回言ったんですか？

GM／「いや、男の子にちよつと失礼かなとも思ってたんだけど……まあ何言ってもいいって言われたし！」

財多 美剣／まあ、なに言ってもいいですよもう……。

イレネ／あ、茉莉こっちこっち。

水守 茉莉／イレネさんどうしたんですか？

イレネ／なんか美剣が見つけてくれてメモ帳。共有します。

水守 茉莉／うーん、多額のお金を使って何か作らせてる？　そして迷宮探索でもらえる特別な戦略を使ってるのか、そういうことですかね？

イレネ／うーん、どうなんだろうな。

水守 茉莉／何かを研究するんだったら、研究員を雇えばいいですし。

イレネ／なあ、なんかこの迷宮に絡んでたら、めんどくさそうだな。

水守 茉莉／そうですね。それにこのオフィスってこの館の部屋がぐちゃぐちゃに入れ替わったんじゃないかと、別のところにあるビルの中のオフィスが歪んで出てきちゃったみたいですよ。貴楽部社長がいるところも、もしかしたら迷宮になってるのかなって思ってます。

イレネ／ああなるほど、まあいるかもしれないってことだな。

水守 茉莉／はい。

イレネ／確かにそうだな。

水守 茉莉／迷宮同士が繋がっちゃったの

かなって思ったんですけど、まあ心配しすぎでしたね。

イレネ／うん。なんか、空間が歪んで、たまたま出てきたメモ帳にしてはちよつと関係がありすぎる。

水守 茉莉／ですよ……。

イレネ／まあこのことはその雪さんには、まあ伝えてもいいけど、ちよつと内緒にしながら。

水守 茉莉／わかりました、秘密にしておきます。

イレネ／うん、先に行こう。

水守 茉莉／了解です。雪さん、美剣、行きますよ。

財多 美剣／はい。

GM／(貴楽部のまま)「うん……何の話をしていたのかしら」

水守 茉莉／じゃあ、二階行きますか？

GM／お、いきますか？　はい、じゃあそうですね、階段を上りきる。すると、すぐ一枚の写真が目に入るでしょう。部屋を見渡すと等間隔に写真が並べられており、ここはギャラリーなのだと理解する。写真、見て

みます？

財多 美剣／見てみます。

GM／はい。写真のほとんどには、小さい女の子と綺麗な女性。たまに貫禄のある男性が写っていた。どの写真も笑顔で、幸せな家庭であることが伺えます。すると雪が隣に並び、優しい声で言います。「この写真、これが貴楽部夫妻とそのご息女の雪様。私とは似ても似つかないでしょう」

財多 美剣／え？

水守 茉莉／あなたが雪じや、雪様じゃないの？

GM／「あら！　まあ、そうね。もしかしたら、あなた達なら分かっているかとも思ってたけど。気付いてないなら上々だわ。実は私、雪様の影武者なの」ってニコニコした表情で言います。

イレネ／あー、ビビった……。

GM／「びっくりした？　口調もね、これが素なんだ。一階は迷宮とはいえ、誰が聞いているか分からないから言えなくて。でもここから先はお父様の大切な場所、貴楽部家しか入れない聖域みたいなものだから。さて、改め

て迷宮屋の皆さん、私の名前は貴樂部唯。ここまで助けに来てくれて、本当にありがとう」と笑顔でお辞儀をしてくるでしょう。

水守 茉莉／双子ってこと？ それか姉妹。
イレネ／ね、姉妹かな。

水守 茉莉／ね。

財多 美剣／貴樂部唯さんとおつしやいましたが、貴樂部さんと苗字が同じということは、姉妹でいらつしやるんですか？

GM／「うーん、姉妹だったら良かったんだけど、私ただの養子なの。十歳ぐらいの頃に引き取られて……貴樂部家の親戚ではあったんだけどね。当時の雪様と顔がそっくりだからって、ここまで連れてこられたんだ。多分、雪様に何かあったから私が必要になったんだと思うんだけど。その理由は私もよくわからなくて。

財多 美剣／ああ、うん、そうでしたか。

水守 茉莉／じゃあ助けてと送ったのは？

GM／「ええ、私よ。あなたたちには突然送ってしまったて申し訳ないと思ってるわ。でも最近お父様の行動が怪しくて。今まで控えていた雪様の生誕祭を今回はするつもりだ

と聞いて確信したの。今日この日にお父様は何か大きなことをするつもりだって。だからあなた達を招待した。来てくれるかは五分五分以上、本当に良かった」

イレネ／なるほど。

水守 茉莉／そのお父様はこの館にいらつしやるんですかね？

GM／「そうね。いると思うわ、おそらく。私は今日一日、顔を見てないけど。でも、あの人がここでパーティーをすると決めて、それであの人がここにいないっていうのも……多分おかしいわ」

イレネ／確かに。

水守 茉莉／もしかしてこの先にいらつしやるんですかね？

GM／「そうね」って言って、ギャラリーの先を雪は見つめるね。ギャラリーの先を見ると、正面と右側に一つずつ扉があることにあなたたちも気が付くでしょう。

水守 茉莉／怖い。はい。

GM／はい。まあ右側の扉の方がすごい重厚感があって、他のものよりも立派なお部屋に続いているんだらうなっていうことがわか

ると思います。

財多 美剣／はいはいはい。

GM／雪はそこを見て、「うん、お父様がいるとしたら、あそこしかない。あそこは誰一人として立ち入らせない。お父様の聖域。私も入ったことがないの。だから……」といった言いよどみます。

水守 茉莉／うーん。どうしますか？ もういつちやいますか？

イレネ／部屋もう一個と、なんか大きそうな部屋もう一個。

GM／「そうそうそう。」「そうね。あの正面の部屋はお父様の寝室に繋がってるらしいわ。奥には化粧室があつて、奥様と一緒に使われていたのかもね」って唯が話します。

水守 茉莉／どっちの方から行きますか？

イレネ／えー、まず寝室からがいいかな。

水守 茉莉／了解。

財多 美剣／まあ、寝室から行くか。

GM／あつ、一応ギャラリーもあるんだった。出しとこ。

財多 美剣／あつ、ギャラリーや。

GM／はい、ギャラリーです。じゃあ寝室で

すね、はい。

イレネ／あ、なんかかわいい。

GM／えー、少し大きめのベッドとドレッサーしか置かれていない質素な部屋だ。奥にはさらに扉がある。しかしあなた達は部屋の内装よりもベッドで飛び跳ねて遊ぶモンスターに目が行くだろう。大きな耳のうさぎのようなモンスターは片手に高級そうな革の手記を持ちながら、「たーのしー！」とベッドの弾力にはしゃいでいます。

水守 茉莉／喋るんだ……。

イレネ／たしかに（笑） たしかに喋るんだ。

財多 美剣／なんか持ってますね。

水守 茉莉／えっと、喋れるなら対話を試みますか？ チラチラ。

イレネ／うーん。

財多 美剣／まあいいけど……。

GM／じゃあ声を。

水守 茉莉／楽しいんですか……？

GM／（モンスターになって）「たーのしーぞー！」って話したら、「わぁ！」ってビックリしてベッドから転げ落ちます。

水守 茉莉／これって私のせい……？ ど

うしよう……。

財多 美剣／じゃあちよつと近づいてみます。

GM／（モンスターになって）「誰だお前ら！ここはオレのもふもふだぞ！ この紙束もオレが見つけたからオレのものだ！お前らにはやらんぞ！」

財多 美剣／その手帳みたいなのを、ちよつと見して、ちよつとだけ貸してくれない？

GM／「やらん！」

財多 美剣／じゃあどうしたらいい？

GM／「うーんそうだなあ、なんか美味いものでも交換じゃないとオレは一步も動かんからな」

水守 茉莉／弁当を渡せって言ってるのかな。

財多 美剣／そうだね。

イレネ／せやな。

GM／言外にね。

財多 美剣／渡してもいい？ 茉莉とイレネさん。

水守 茉莉／情報が欲しいからしようがないとは思う。

財多 美剣／オツケー。じゃあさつき見つけたお弁当あげながら、じゃそれと交換でいい？

GM／うん。そうしたらいい匂いを嗅ぎつけた耳の長いモンスターは「なんだそれ？ くれるのか、お前いいやつだな！ これ欲しいんだろ、やるよ、食えないもん！」って言って手記を放り投げてきました。

財多 美剣／あつ、かわいい。ありがとう、ありがとう。

GM／「おうよ、大事にしろよ！」

財多 美剣／大事にする。ありがとう。

GM／じゃ手記の内容を送ります。

財多 美剣／はい。

GM／上質な革の手記ですね。手記をペラペラと捲る。すると少し字が乱れた気になるペーじがあった。

○月×日 雪が迷宮へ落ちた。連絡が来てから気が気じゃない。無事なのか、怪我していないか、心配が絶えない。どうか生きて帰ってきてくれ。

○月×日 迷宮が攻略されようやく会えた雪の瞳は閉じられたまま、まるで人形のように

にピクリとも動かなくなっていた。迷宮性ネバーランド症候群。魂が迷宮に囚われる、治療方法もない不治の病だという。信じられない、どうして雪がこんな目に。

雪は必ず助ける。囚われたのなら同じもので解放すればいい、多少荒技だが希望はあるだろう。まずは迷宮化現が起こる場所を特定しなくては。迷宮屋は、迷宮の素材を使えば神秘のアイテムを作り出せるヤツもいると聞く。死者をも蘇らせる聖なる杯、これがあれば魂は取り戻せずとも肉体であれば保持できるだろう。雪、かわいい私の娘。お前の声が聞きたいよ。

10月20日 準備は全て整った。明日、雪は目を覚ます。ようやく掴み取った瞬間なんだ、誰にも邪魔をさせはしない
と書かれています。

財多 美剣／なるほど。これ、あれなんじやない？ もしかして他の人間を迷宮に閉じ込めて、閉じ込めるというか。なんか身代わりにして雪さんを助けようとか……。僕の勘が間違ってるな。

水守 茉莉／私もそう思った。それに唯さん

をチラチラを見ながら、その標的も決まってるんじゃないかなあって言ってるのかな？

財多 美剣／まあそうだろうな。

イレーネ／頭良いな2人とも。なんも察してなかった。魂……肉体だけでいいのか。

財多 美剣／やっぱ肉体……肉体を保持して、まあ魂を今からそれに入れるというか。そういつた話なんじゃないですか？

水守 茉莉／だからさっきの秘書のメモ、唯さんには秘密にしてるメモの内容はこの、神秘のアイテムを作らせるために雇ってたってことかしら？

イレーネ／どうだろうな。

GM／雪が「なに？ その手記にはどんな内容が書かれているの？」と近づいてきますからね。

財多 美剣／どうするかな、言うか？

水守 茉莉／そしたら雪をちよつと離れさせるかな。雪さん、これダメだよ見ちゃ。迷宮の人しか見ちゃいけないものなの。迷宮探索を一般人ができないように迷宮で手に入れたものは迷宮屋が見れないものなの。ほらね、自分を大切にするなら、これは見えない方

がいいよ。

GM／（貴楽部になって）「そんなアーティファクトがここには存在するのね。うん、わかった。気になるけど、でもそれで何かあったら怖いし。ついて来させてもらったのもあるから見ないことにするわ」てニコつと微笑みます。

イレーネ／かわいい。

水守 茉莉／ね、かわいい。

財多 美剣／かわいい、なるほど。

水守 茉莉／でもこれ共有した方がいいのかな。

財多 美剣／わからん。

GM／まあそれは好きなように。

財多 美剣／そうだな、これ。貴楽部唯さんはどう思うかな。尊重したいけど、尊重というか。ま、これはよくないことだから、正直僕は止めたいと思っている。

水守 茉莉／私も止めたいかな？ 話しておいたほうが身構えることはできるけど。でもシヨックは受けるよね。

イレーネ／他の人の魂を捧げる以外に雪さんが助かる方法ないのか？ あとは唯さん

も助けたいけど。

水守 茉莉／私も2人とも助けたい。

イレネ／でも今のところないんだろ？助ける方法。

GM／うんまあ、なかなかどちらも助けるっていうのは厳しいところがあるんじゃないのかな？

財多 美剣／天の声が天の声が(笑)

水守 茉莉／ええ、PL目線でなんかそのモンスターが特別な方法を教えてくれるかなって思ってたけど。

水守 茉莉／なんか意味深じゃない？このモンスターって。喋れるし。癒しマスコットなのか、お前は？

財多 美剣／聞いてみれば？

水守 茉莉／あのちよつといいかな？もふもふは取らないからお話だけ聞いてもいいかな？

GM／(モンスターになって)「あ！なんだ、今俺は飯を食うのに忙しいんだが」

水守 茉莉／そっか飯か……じゃあ、その飯を食べながらでもいいからちよつと質問してもいいかしら？

GM／「ああ、いいぞ、なんだ」

水守 茉莉／もしどっちなか死なないといけない人が2人いて、その片方が死ななきゃならない時。あなただったらどんな方法を使う？

GM／「うん……」

水守 茉莉／二人のうち一人が死ぬけど二人とも助けたいとき、あなたならどうする？

GM／「それは……難しいんじゃないか？だって、どっちなかは死んじゃうんだろ？うん……。でも、そうだなあ。もしそれが迷宮の中だったとしたら、迷核を使えば何とかなるんじゃないかあ？知らんけど！まあ、あれ何でもできるし！どっちも助けるぐらいできるんじゃないか？」って。

水守 茉莉／おお……。

イレネ／迷核、そんなにすごいものなのか？

GM／迷核、すごいんだよ本当に。この迷宮を作り出せるものだからね。

水守 茉莉／ほあ。

イレネ／お、おう……。

GM／まあ、なかなか力を秘めている……

のではないでしようかね？

イレネ／なるほど。……二人を助ける方法は、まあ、ゼロではないってことか。

水守 茉莉／そうですね……。迷核を見つけて出して、使えるようにできれば何とかなるかも……。

財多 美剣／そうだな。

イレネ／まあ……。どちらかを失うかもしれないという覚悟だけはするんだぞ。二人とも。まあ、私が一番できてないけど……。

水守 茉莉／……わかりました。備えておきます。一応、唯さんがそのことを聞きたいかだけ、質問しときませんか？

イレネ／そうだな。

水守 茉莉／おうい、唯さくん。唯ちゃん、唯ちゃん。

GM／「ん？なあに？」

水守 茉莉／あの、自分がとってもショック受けるだろうけど、新たな情報を知りたい？

GM／「うん、もし私に関係があることだとするならば、もちろん知りたいけれど……」

水守 茉莉／それでもし、自分が傷つく結果

になったとしても？

GM／「うーん……。それでも、私はあなた達に助けを求めたわ。その結果何が起ころかは、覚悟していたことだから。……うん。だから私は、もし、もしもこの事件に関係することだったら、知りたい。なんであろう」と、話すでしょう。

イレネ／どうする？

水守 茉莉／どうします？ どうします？

財多 美剣／じゃあ、まあ話して……。どこをどう教える？

水守 茉莉／じゃあ、かいつまんで教えてころかな。雪ちゃんがいつだかはわからないけど、小さいころ迷宮に落ちたってことと、その、雪ちゃんが目覚めなくなってしまうって、お父さんが助けようと思っていること、その計画を今日、実行しようとしていること。を話したいです。

GM／お。

イレネ／いいと思います。

財多 美剣／私は、唯を身代わりにしようとしていることは隠した方がいいと思う。

水守 茉莉／そうだね。一応、まだ推測だから。

ら。

GM／そうですね。では、その情報を聞いた唯ちゃん……。まず、雪ちゃんが迷宮に落ちてしまい、その魂が未だに迷宮に囚われていることを知りショックを受けます。まあ、同時に。自分が今までどうして彼女の身代わりになっていたかを知って、ちよつとスツキリとした表情を浮かべていますね。

「そう、そうなの。お父様が、そんな計画を……。確かに私も、今まで身代わりをやってきた身として雪様のことは助けない。助け出してあげたい。でも、こうして多くの人を巻き込んでいる結果を、私は認められないわ。……もし雪様を助けられるとしても、とりあえず、今の現状は何とかしなきゃダメよね。教えてくれてありがとう。まずは、私たちのやるのが決まったわね」と、寂しそうに微笑んでいます。

水守 茉莉／ああ……。

財多 美剣／うわあ……。振るダイスがない……。

イレネ／無いS.M.値が減る……。

GM／ゴリゴリ。

財多 美剣／じゃあ、行きますか。

水守 茉莉／行きますか。てかこのモンスターに割と愛着もつちゃただけ……。
イレネ／分かる。

財多 美剣／肩に乗せとく？

イレネ／いや、もふもふが好きなんじゃねえか？

財多 美剣／もふもふも一緒に持つていけば連れていくことできるかな。

GM／ベッド担いで持つていくつてコト……！？

財多 美剣／ベッドのシーツを……。

イレネ／えつ、いやあ……。そつとしいてやろうぜ！ ここの……マスコットみたいなもんだからさ。

財多 美剣／んなはは（笑）

GM／マスコット（笑） 連れてつてもいいけど。その場合、イレネさんが肩に枕を担いでればついてくるんじゃないかな。

財多 美剣／可愛すぎだろ。

イレネ／連れてくの？

GM／どっちでもいいよ。連れてかない？

イレネ／連れていかんではないと思うけど。

財多 美剣／じゃあいつか！ ばいばーい
って手振ってる。

イレネ／ありがとう。

水守 茉莉／ゆっくり食べてねー。

GM／「ん、じゃまたなー！ 飯ありがとなー！」

財多 美剣／可愛すぎ。どういたしましてー。

GM／では、一旦ギャラリーに戻ります。ゆい
が少し気を張った表情で、「ふう、おそらくこの先にお父様が……いえ、今回の元凶がいるはずです。……皆さん、準備はよろしいですか？」

水守 茉莉／私は大丈夫。

財多 美剣／僕も大丈夫だよ。

イレネ／よし、じゃあ行こう。

GM／「はい、では行きましょう。どうか……お父様を助けてあげて下さい」

——場面移動 一行は寝室へ

GM／重い扉を開けた先には、荘厳な雰囲気
に包まれた美しい寝室が広がっていた。部屋
に置かれた調度品。壁に描かれた見事な風景。
中央に鎮座する天蓋付きのベッドまでま
まがある。ベッドには金色の盃と共に一人

の少女が横たわっており、そばで男性が見守
っているようだった。その男性は十中八九、
貴楽部雪の父親である財部茂雄であること
をあなた達は何となく理解することではし
う。唯はその様子を見て「あれが雪様……。
それに、やつぱり。お父様も……」と言って、
口ごもります。

どなたか、何かしたいことはありますか？

水守 茉莉／えつと、そつと周囲を観察とか
はできますか？

GM／観察してもいいけど……うん、周り
は特に……。

水守 茉莉／情報がない？

GM／そうだね。気になるのは、中央にいる
二人と、恐らく手記に載っていた盃があるな
あれだけ異質だな。つてことぐらいですね。

水守 茉莉／了解です。

GM／誰か声をかけたりしますか？

水守 茉莉／とりあえず、茉莉は唯のそばに
います。

イレネ／ああくいい子。

GM／唯は、茉莉の袖をこう、くいつと引つ
張って、震えているよ……。

水守 茉莉／ヒロインだあ……。

財多 美剣／ああく。

水守 茉莉／絶対、守るからね！

GM／「優しい……。ありがとう」

イレネ／じゃあ、話しかけますか。

財多 美剣／はい。じゃあ、こんにち。何
をなさっているんですか？

GM／「む？ おや、君たちは……。どちらさ
まかな？ 何をやっているかと言われても……。
……。そうだな、娘の寝顔を見ていただけだよ。
こんなにも可愛いんだから、見ているも仕方
がないだろう？ それにしても、ここは貴楽
部家のプライベートな空間なんだ。こんなと
ころまで入ってくるだなんて、君たち一体、
どういうつもりかな？」

財多 美剣／申し訳ない。こちらの建物の一
帯が迷宮化しております。それを直すべく
ここまで迷核を探しに来了。といったところ
です。

GM／「迷核……。そうか、迷核か。では君
たちは私とその迷核の持ち主であることを
何となく察しているのだろう。そして、迷核
を探しているということは君たちは迷宮屋

ということの間違いは無いんだね」

財多 美剣／まあ、そうですね。

GM／「で、あれば。私はこの迷核を君たちへ渡すわけにはいかないんだ。……そうだね、今君たちが元の場所へ帰ってくれば、この愚行は見なかったことにしてあげよう。……どうだい？ 大広間に戻って娘の生誕祭が再開されるのを待つ気はないかね」

財多 美剣／……回答は一旦、待機します。

イレネ／どうする？

水守 茉莉／でもこれ、戻ったとして帰れない？

イレネ／迷宮が消えるかは分からないから帰れる保証がないね。

GM／「どうするんだい？」

財多 美剣／えっと、ここにいてもいいですか？

イレネ／徹底抗戦だ。

水守 茉莉／でも、殺す気はない。

イレネ／うん。

水守 茉莉／核さえ手に入れば、みんな救えるだろうし。

財多 美剣／ん、じゃあ。……申し訳ないで

すが、僕たち迷宮屋は迷宮化した場所を元に戻す義務があります。その迷核、こちらに渡してもらえませんか？

GM／「なるほど？ つまり君たちは、引く気がないわけだ。そうか……仕方がない。パーティーの参加者が少し減ることになるが……別にこまわないだろう」そう言っただけはあなた達の前に立ち塞がります。彼の手には黒いモヤが集まり、それは禍々しいモンスターに姿を変えていった。頭のない怪物はあなたにゆらゆらと近づき、拳を向けてくるでしょう。ということで、戦闘開始です。

イレネ／あら〜。

水守 茉莉／ひゃ〜。

財多 美剣／ふう〜。

イレネ／いや、まあ、人間相手じゃないならいいや。

財多 美剣／んふふ（笑）

水守 茉莉／でも、お父さん耐久値あるよ。

イレネ／えっ。

GM／あるよ〜やるよ〜！

イレネ／んええ……。

GM／まあ一応、迷核だけを取り出す場合は、

迷核の停止表（専用ダイスロール）というものが存在して、それを振ってもらって停止か破壊かを決めてもらいます。まあ、頑張ってくださいね！

財多 美剣／えっと、これは迷核を取り出したけれど、ロールが必要になってくるってこと？

イレネ／そうだね。

財多 美剣／説得とか振ってえ……。

イレネ／振りたいね。

財多 美剣／ね。

GM／無いんだなあ、説得は。では、戦闘に入ります。

——戦闘開始——

GM／では、先ほどと同じように先攻後攻から決めていくので、【才覚】をお振りください。

財多 美剣／（ころころ） 2d6+5=19

イレネ／たっか！

GM／まあ、余裕でクリアですね。では、財多美剣くんから順番に攻撃をお願いします。

財多 美剣／これって、迷核単品をどうこうすることってできないですかね

GM／今回、迷核が表面とかじゃなく、体の中にすっぽりと取り込まれてしまっている形なので、迷核単体への行動は難しいですね。

財多 美剣／なるほど。

GM／ボコスカやらないことには取り出すことすら難しいでしょう。

財多 美剣／社長を殴らないことには始まらないのか。

イレネ／どうしてよ……！

GM／社長を重点的にぼこぼこにしてほしいかな。

財多 美剣／まじか。

イレネ／おお……。

水守 茉莉／社長のHPがやばそうなときに手加減することって、出来ないんですか？

GM／まあ、したければ…数値÷2とかの値でもいいよ。

水守 茉莉／あつ、了解です！

財多 美剣／じゃあ…どうしよう。

水守 茉莉／私は、【秘術】の《使役獣》を使って肉壁を増やそうとは思ってる。唯さんに攻撃が当たりにかねないし。

イレネ／どうしよう……。

GM／どうしたい感じ？

イレネ／殺したくない……。

GM／でもまあ、迷宮支配者は強いからそう簡単には死なないよ。

イレネ／う、ん。ん…。

財多 美剣／イレネさん、人間には手を出したくない？

イレネ／うん……。

財多 美剣／とりあえず、自分のロールします。迷宮支配者に【武勇】振ります。

(ころころ) 2d6+3≡10 【武勇】

GM／成功です。続けてダイスをどうぞ。

財多 美剣／(ころころ) 1d6≡4 【大剣】

GM／成功です。大剣により攻撃をすることには成功しましたが……。

水守 茉莉／え……。

GM／その与えられた傷は、じわじわと迷核の力で癒えていて、攻撃の威力ほどのダメージは入っていないように感じられますね。

財多 美剣／迷核の力を利用しながらの戦闘か……。中々手強そうだ。二人とも、気を付けて。

水守 茉莉／わかった。私が、まず、肉壁出

すから……！ えっと。【秘術】使います。

水守 茉莉／(ころころ) 2d6+5≡9

【秘術】おつ、成功です。

GM／はーい、OKです。

水守 茉莉／それじゃあ、2d6の配下を呼び出します。……この配下たちって、肉壁に出来まスカね？

GM／調べてきたんだけどね、えっと、配下は肉壁になることができるし、1d6消費することで、数値を一つ増やすこともできますね。数値増やすのは失敗したときにも使えるのでご自由にどうぞ。

水守 茉莉／了解です。

GM／ちなみにその肉壁の防御先はどこにしますか？

水守 茉莉／ゆいちゃんに着けられますか？

GM／いいですよ。そしたら、唯ちゃんもタゲの中に入れちゃお。

水守 茉莉／ハイッテナカッタ……。

GM／ハイッテナカッタヨ(笑)

水守 茉莉／そしたら、美剣とイレネにあげたいです。

GM／イレネの方が動ける選択肢が多くないからそっちのがいいかな。

水守 茉莉／了解です。じゃあ、イレネの配下を4増やせばいいですかね？

GM／そうですね。この場合はイレネが、配下を肉壁としても、数値アシストにするか、選べるようになりますので、お好きにどうぞ。

イレネ／はい。えつ、どうしよう……。

水守 茉莉／数値増やすルールにはもしかすると足りないこともあるかなので、肉壁として使っちゃってください！

イレネ／りようかい。

GM／では、イレネさんの行動をお願いします。

イレネ／はい。……何をすればいい？

水守 茉莉／何がしたい？

財多 美剣／心情を貫くか、使命のため思いっきりやるか。

イレネ／うん……。殺さないように手加減しつつ社長の方を狙いたい……。

水守 茉莉／がくんばれ、がくんばれ！

イレネ／…攻撃のダイス2d6+5のと

ころを、2d6+2に減らして、社長に攻撃を仕掛けます……。

(ころころ) 2d6+2≡4 【武勇】

イレネ／低つく……。

GM／当たりませんでしたね。

イレネ／とても低い。

財多 美剣／低いね……ファンブルだ……。

GM／あつ、ファンブルだ。ファンブル。

えつと、まず、気力を1マイナスにしてもらいます。そこから、ファンブル表があるのでダイスを振っていただきます。2d6を振ってください。

イレネ／(ころころ) 2d6≡6

GM／6は……自分の攻撃が自分に命中。

イレネ／えつ、え！

GM／さあ、ダイスを振るんだ！

イレネ／(ころころ) 1d6≡5 【大剣】

あつ、5……。

水守 茉莉／配下使う？

イレネ／あつ、配下。

GM／配下を4人削って、いや、でもファンブルか……。

イレネ／厳しい？

GM／ファンブルによる自分自身への攻撃だから、配下使うのはきついかも。

イレネ／そっか……。

GM／では、耐久値を5減らしてください。

イレネ／甲冑身に着けてるので、ダメージ1マイナスできませんか。

GM／あつ、甲冑により被ダメージに1の補正がかかるので、耐久値を4減らしてください。

GM／お次は、迷宮探索者のターンです。

まずは、ターゲットを決めて……。あつ、左のかいやつから攻撃始めます。

PL／はい。

水守 茉莉／私に攻撃が来てくれば、フルコースで、みんなに回復ができる。

GM／そうだね。どうしよつかな。先に武勇振って判定しちゃお。

GM／(ころころ) 2d6+1≡10 【武勇】

水守 茉莉／10！

GM／あつ、でかい。

水守 茉莉／私は大丈夫だ。

GM／で、タゲ、1！回避値10。

財多 美剣／回避値……、ああ、美剣の回避

値ですか？

GM／美剣、ああそうか美剣か。美剣は？回避値…あ、10ですね。じゃああなたん…なかった。

イレネ／ギリいけ…ないか、そっか

GM／はい、当たりませんでした。

財多 美剣／はい。

GM／じゃあ次。ええ、迷宮支配者。あ、でもタゲ決めからだな。えゝつと、イレネさん。

財多 美剣／やばいやばい。

GM／12！ 当たります。

イレネ／おおいんじやない。

GM／はい、ええ、1D4です。（1D4―

2）あ、ちっちゃい！ そしたら、配下が二人、消し飛びました。

イレネ／おお…はいはいはい。

GM／みなさまそこまで…まだ大丈夫そうですね。てことで、二巡目いきまゝす。じゃあ、財多くん。

財多 美剣／は〜い。イレネさん大丈夫ですか？ なんか人間狙うの嫌だったら、ボク全然狙うんで…じゃあ人間のほうを狙い

ます。武勇ですか？ とりあえず。

GM／はい、武勇振ってください。

イレネ／はい。

GM／7、は。

イレネ／どうだ？

GM／あ、避けました。

イレネ／避けちゃった。

GM／あたりませんでしたゝ。

イレネ／あゝ、はい。もう終わりや…。

GM／はい次。茉莉ちゃん。

水守 茉莉／え、どうしよう。配下をまた誰かに増やすか、私もだんびらで戦うか。

GM／うんうん、どっちでも。

水守 茉莉／それでも迷宮支配者がすごい強いっていうのは事前に知ってるんですよ。ね。

GM／そうですね。まあ基本的に、今まで倒してきた迷宮支配者がいると思うんですけど、みんな並びに強かったなあ、まあこいつも強いんだろいうなあって感じですよ。

水守 茉莉／はいはい…。じゃあ戦います。12！

GM／お！

イレネ／ああ、すごい。

GM／当たります。ダメージ！

水守 茉莉／じゃあだんびら行きます。え、これ気力消費して、ダメージってプラスできますか？

GM／ああ、あつた気がする。ような、えゝつとねえ。

水守 茉莉／なんか、その、クラススキルの術式詠唱で、気力をため放題なキャラクターになる。スキルのコストや因縁表、ダメージの増加などいろいろな使い方があって書いてあつたんですけど…どうでしょうか？

GM／はいはい、えつとねえ。あ、戦闘中の攻撃にプラス1D6の判定をできます。希望を一つ使おうと。

水守 茉莉／じゃあ、2D6で振ればいいかな？

GM／そうだね。

水守 茉莉／1D6プラス1D6で、じゃあ気力一点消費して、だんびらの攻撃に1D6プラスします。

GM／はい、どうぞ。

水守 茉莉／11点です。

GM／11点。じゃあお前は……なかなかのダメージに、ふらふらと体が傾いていきますが。

水守 茉莉／うそ……！

GM／まだ、まだ俺は頑張れるぞっていう風に、仁王立ちしていますね。

水守 茉莉／うっ……了解です。

GM／あと希望はねえ、スキルで使ったから、もう1点減らしてもいい？

水守 茉莉／え、あ、今使ったのが気力で、GM／あ、そうか希望で減らしたのか。おっけ。

水守 茉莉／スキルは希望で、気力がだんびらの攻撃ですかね。

GM／了解です。じゃあ次、イレーネさん。イレーネ／はい……うーん……。

水守 茉莉／じゃあ迷ってるの見て、イレーネさん！ここは迷宮支配者は私とみつるでやるので、その犬？をお願いしてもいいですか？

GM／ふふ、犬。

水守 茉莉／……って言おうかな。犬。

イレーネ／うーん。

水守 茉莉／犬みたいなやつ！

イレーネ／これ……犬？犬？

財多 美剣／犬。

水守 茉莉／わかんないけど(笑)

GM／ま、使い魔だし、実質犬みたいな。

イレーネ／全然犬に見えないんだけど……これ二足歩行？

財多 美剣／え、そう？二足歩行で、手から口出してるみたいなの……手から口出してるわけわかんないけど。

イレーネ／いやっハーン……いや……。

GM／いいよ、好きなほうで。

イレーネ／いや、私は。みんなを守るためにここに来た。

水守 茉莉／でも無理しなくていいんですよ？

イレーネ／仲間を守れないんじゃないや、傭兵失格だ。いや、ありがとう大丈夫だ。次はちゃんと当てる。

水守 茉莉／……信じてます。

イレーネ／……振りますね。

GM／はいどうぞ。

GM／はい、当たりますね。ダメージをどうぞ。……いいですねえ。え、けっこうなダメージが入りまして、まあ少し頭を抑えてふらつく素振りを見せるでしょう。あ、でもまだいけそうだね。もうちょいはい。

イレーネ／……はい。

GM／でことで、逸脱者振りまうす。

財多 美剣／はい。

GM／よしよし、逸脱者。タゲ決め！イレーネさんには、はい当たらない！次迷宮支配者！……あれ、10ってさ、10はさ。あ、当たってないですね。

水守 茉莉／茉莉は10です。

GM／はい、大丈夫です！

イレーネ／つよ。

水守 茉莉／やった。

GM／みんなえらいね。

水守 茉莉／当たったらあたし気力全部なくなるんだ(笑)

GM／そうなんだよ……。

財多 美剣／庇うとかないんですか。

GM／残念ながら庇う制度はございません。

財多 美剣／ないかあ。

GM／まあ当たってないから。はいじゃあ財多くんどうぞ。

財多 美剣／じゃあ人間のほうを狙います。

GM／はい。

イレネ／まず武勇、振ります。 11

GM／はいえらい。

イレネ／1D6。え。

GM／2。えー、うーん。うん。だいぶ、宝部社長、迷宮支配者は苦しそうな表情をしています。まあそうですね。愛娘を助けるため、力を振り絞り、まだまだ立ち向かってきますね。

イレネ／はい……。

GM／ことで、茉莉ちゃんどうぞ。

水守 茉莉／まって、どうしよう。え、茉莉配下増やすか？ええ、でもとどめさせそう、半分の値にしたとしても。でも誰かがやんないといけないよね。

GM／そうだねえ。

水守 茉莉／うう……じゃあ迷宮支配者に、行きます。

GM／はい、どうぞ。

水守 茉莉／あ、ダメだ。

GM／当たんない……じゃあまあ、あなたが振ったたんびらは、一瞬の気の迷いもあったたんでしよう、迷宮支配者には軽々と避けられてしまいました。

水守 茉莉／ああ……。

GM／はい、イレネさん。あ、イレネさん……。

イレネ／あ、イレネさん(笑) 察しの声が(笑)

GM／え、あ、え、い……く？どうする？

イレネ／ええ……。

GM／最年長……でも……人間だし……。

イレネ／いやあ、まじでえ……娘守つてんのきついわあ……うーん、いや……頑張るけど……その、戦鎧が威力3固定なんですよ。

GM／うんうん。

イレネ／ど、どうえでしよう。3。

財多 美剣／どうでしよう、3(笑)

GM／うーん、うん。

水守 茉莉／ワンチャン死ぬけど……。

イレネ／ワンチャン死ぬけど怖すぎる。

財多 美剣／なるほど。

水守 茉莉／だって死にそうじゃない？

イレネ／3もないかな、どうだろう。3、いけるんじゃないかっていう。まあ、うちは思ってるけどイレネさんは思ってるな。

財多 美剣／ふふ。

GM／うん！ ニコニコ

イレネ／ニコニコ……？ 3……3どうだろう。

GM／あ、BGM流しておこ。

水守 茉莉／いま23ダメージ入ってるんだよねえ。

財多 美剣／あゝはあ？

イレネ／そうなんだ。

財多 美剣／切りのいいところで考えるなら25だな。

水守 茉莉／うん…。

イレネ／え、1食らわせろってこと？ 1

か2。1か。

財多 美剣／まあ別になんかほかになんかできることないの？ なんか、戦う以外で。

イレネ／え？

財多 美剣／なんかないの？ 回復スキルとかない？

イレネ／な、ないですよ？

財多 美剣／ないんかい。

イレネ／ないです。みんなを守るために戦うんで。

財多 美剣／はい……。まあ普通に、そうだね。

イレネ／1…….それだけ弱ってれば交渉ができないかって思っちゃうけど、できないでしょ。

GM／ああ娘…….そうですね。まあこれは長年の夢でしたからもう聞く気はないでしょうね。

水守 茉莉／はえ。

GM／え、それとも貴楽部社長に配下つけとく？

イレネ／…….おお。

GM／ふふふ。

イレネ／でもうちは配下つけない…….

GM／ああ、でもそっか、そうね。でも茉莉ちゃんが次のターンになっちゃうから無理か。

イレネ／戦鎧3を割る2しますか？ 1か2。

GM／ああ、いいよ。

イレネ／ど、どう振ればいいですか？ まず武勇ですか。

GM／うん、武勇振って。

イレネ／当たるかどうか。

GM／そうそうそう。

GM／あ、当たります。そしたら…….まあ1D2かな、そしたら。

イレネ／1D2。ワンチャン死ぬぞ、どうだろう。

水守 茉莉／うわ。

イレネ／2！

GM／まあまあまあ。はい。そうですね。ふらふらとふらつきながら迷宮支配者はばたんと倒れることでしょう。

イレネ／ふああ。

GM／そうだなあ、ええと。じゃあ、お待ちかねの迷核止まるか止まらないかゲームしようかなあ！

イレネ／あく、やっぱそんな感じなんだ。

GM／そんな感じですよ。まあ先ほども申した通りダイスを振りまして、停止表なるものがございますのでそれでね。

イレネ／先輩が振る感じですか？ K Pが振りますか？

GM／あ、振りたい？ いいよ。2D6振って。

財多 美剣／え、どうします？ 誰振ります？

イレネ／ん？ あの停止できればいいかな？ 破壊はダメかな。

GM／破壊したらまあ助か…….ううん、助けられる云々の話はなかったことに。

イレネ／ああ、じゃあとにかく、その停止表がどんな感じかもわかんないけど停止をできるように頑張れば。

GM／ああ、停止表先に見る？

財多 美剣／いや、見ないほうがいいでしょ。

イレネ／いや、これ、イレネさんが最後だから、イレネさん振っていい？

水守 茉莉／いいよ？

イレネ／戦鎧が…….どう響くか。

2D6↓2

財多 美剣／ああ。

水守 茉莉／ファンぶってる…….！

GM／ふあ！ あ、こわ…….え、2。迷核

が肉体に致命的な迷宮化を引き起こす。迷宮の核はまだ停止しませんが、貴楽部茂雄、迷宮支配者です。致命表を振ることでございませう。致命表を振らせていただきます。

水守 茉莉／うわあ、ワンチャン自分で自分を殺すのか？

GM／そう、いま、体内で迷核が暴走している状態になりましたね。

財多 美剣／うわあ。

GM／え、2D6。よいしょ、10

イレネ／たか。

水守 茉莉／たか。

GM／まだここで死ぬ運命ではないのかも。魅力で難易度9マイナス現在のHPの判定を行う。成功するとHPが1になる。失敗すると行動不能になる。あ、えらい。死なない。

水守 茉莉／やったねえ。

イレネ／あ、よかった。

GM／え、とじゃあねえ。ま、でもどちらにしろ行動不能かHP1なので、無事迷核を停止し、停止じゃないわ、そうだね。迷核を特に傷つけずにとりだすことに成功したこ

とにしましょう、これは。

財多 美剣／わーい。

イレネ／わー！

GM／すごい。やばい、めっちゃきれい。

水守 茉莉／よかった。

GM／だって、致命傷、半分ぐらい死ぬもん。

財多 美剣／ええ……。

GM／ああ、でも行動不能って言ってるもんね。つと、致命だから、はい。じゃあ男は迷核の暴走が無事収まり、その場に倒れること。しょう。不気味なモンスターは消え去り、迷宮も迷宮支配者が倒されたことで少しずつ崩壊を始めているようだ。うまい具合に攻撃をしたあなたは、迷宮支配者の体からもわもわと飛び出てきた迷核を手に入れます。それはまだ活性化しており、少し力は弱まっているものの何か奇跡を起こせる力が残っているのだと感ずることでしょう。

水守 茉莉／え、じゃあ……。

GM／そうだねえ。じゃあ今は、足元に社長が倒れていて、ベッドには少女が寝ていて、迷核はイレネさんが持っているのかな、っていう状態ですね。RPをどうぞ。

イレネ／あえ？ ちよっとイレネさん、イレネさん……気が気じゃないので。持てないです、たぶん。

GM／ふふ。

イレネ／誰かとてくれ。

財多 美剣／じゃあ持ちます。

イレネ／ありがとう。持てるものなのかわかんないけれど。

GM／まあたぶん実体として、なんか丸い感じの。紫系のオーラがふわふわって漂っているような珠、って感じかな？

水守 茉莉／イレネさんナイスです！

イレネ／まって、貴楽部さんだけ？

GM／そう、貴楽部さん。

イレネ／生きてるんだな？ これ。死んでないんだよね？

水守 茉莉／一応確認しようかな。呼吸……あ、ありそうですか？

GM／ありそうです。浅いですけどまだ生きてはいそうです。

水守 茉莉／え？ え、じゃあこの……フルコースって使えますか？ 貴楽部さんにも。
GM／あ、いいですよ。

水守 茉莉／じゃあフルコース、一個消費して、貴薬部含むみんなを回復します。

GM／はい、じゃあ。

水守 茉莉／ええと、何点だっけ……あ、1D6振りまうす。

GM／はい。

水守 茉莉／あ、1点だ、ごめん。ごめんみんな、ごめん。

GM／じゃあみんな仄かに体が軽くなったなあみたいな感じ。

財多 美剣／はい。茉莉、ありがとね。

水守 茉莉／なんか、あんまり、うまく作ってこれなかったんで、あれですけど……。

GM／茉莉の手料理なんだ、いいなあ。

水守 茉莉／あ、わかんない(笑) フルコースとだけ書いてあるから、作ってこないとなあって。

財多 美剣／フルコースという魔法？

イレネ／霞喰ってる(笑)

GM／ふふふ。

水守 茉莉／じゃあ、うまくあんまできなかつたんですけど。

財多 美剣／ん、大丈夫。ありがと。ねえ、

貴薬部さんは、大丈夫そう、とは言えないけど。まあ、とりあえず息はあるのね。

イレネ／よかった。本当に良かった。

GM／唯は財部社長を尻目に「雪様！」って言ってベッドのほうに駆けていきます。「雪様、初めてお会いしましたけど、でも、無事に助けられてよかった。私、今まで頑張ってきたんです。あなたがいない間、あなたにいつか会えるかもしれないって思いながら頑張ってたんです。だから、どうか目を覚まして」と、側で話しかけているかな。さてさて、迷核を持っている財多くんは。

財多 美剣／はい……じゃあそうだな。これ、願い、願い叶えてくれるの？

GM／「これは……お父様を取り込んでいた迷核！ これ、とても貴重なものですし、巷では高く売れると聞きますが、私にくださるんですか？」

財多 美剣／うーん、まあ。そうだな、あげるよ。

イレネ／あ、あげるの？

財多 美剣／あげる？ うん、たぶん。雪さんのために、使うんでしょ。

GM／「はい。もし願いが叶うのなら、私は、私は雪様を目覚めさせてあげたい。お父様の願いも、そして、私の願いも、同じものだから」

財多 美剣／茉莉、イレネさん。大丈夫ですかね。

イレネ／ああ、そのためにここまで来たからな。

財多 美剣／茉莉もそれでいい？

水守 茉莉／うん、みんなが幸せになるならそれでいい。

財多 美剣／わかった。まあ、いつもはこういうのは高く売れるなら売ったりしてるんだけど。今回は特別に。じゃあ、唯に渡しします。

GM／「はい、ありがとございます。この恩は一生忘れません」そういつて唯は雪の手に迷核を優しく置きます。すると迷核は淡い光を放ちながらきらきらと消え去っていくことでしょう。唯がじつと見つめていると、雪の臉がぱちぱちと瞬かれる。「あれ、ここは……今まで私は何を……」そしたら、唯ちゃんは「雪様、あなたが雪様ですね。今まで

いろんなことがありました。何年も、あなたが眠られてから何年も経ったんです。でも、無事目覚められてよかった」そう言っ過ぎてうぎゅうと抱きしめているでしょう。

財多 美剣／まあ、よかったなあ、これで。
GM／唯は振り返って、「本当に、ありがとうございしました。あなたたちを招待したことは、間違えてなかった。あなたたちが来てくれて本当に良かった」と涙を流します。

財多 美剣／まあそれはね、まあ天才の僕ならこんなくらいね。このくらいの迷宮なら一瞬でパパっでどうにかできちゃうからね。まあ、まあね。まあ、いつでもね、呼んでくれたまえ。いつでも駆けつけるからさ。

GM／「ふふ、はい、頼もしいですね！」

水守 茉莉／こら、調子乗らないの！

財多 美剣／ふふふ、まあまあまあ。だって本当のことだし。

水守 茉莉／一瞬では解決できてなかったじゃない。

財多 美剣／ううっ……う、まあまあでも、まあ。でも、早くできたほうなんじゃないか？ わかんない。

水守 茉莉／まあでも、美剣がいつぱい攻撃してくれたおかげで、イレネさんがうまい具合に気絶させてくれたから、本当に良かった。

財多 美剣／まあそうだね、イレさんもすごいよ。なんか、すごかったわ。もうなんか顔が、だから冷や汗かいたもん。

イレネ／まあ本当に、私が助けられてしまったな、ありがとう。

財多 美剣／ふふふ。まあまあまあ、これからも三人ならどうにかなるでしょ。また、何か困ったことあったら言ってね。唯さん。

GM／「はい、ありがとうございます。ちゃんと、あなたたちの評判は世間にとどろかせていきますから！」

財多 美剣／やったあ！ ははは！ え、じやあこれで人気者ってこと？ 僕？

GM／「はい、人気爆上がりですよ、だって貴楽部が推薦するんですもの！」

財多 美剣／やったああああ！ これで、人気者！ うれしいなあ、うれしい嬉しい！ ニコニコ。

GM／そうですね、それじゃあ。そんなやり

取りをしているうちにも、迷宮はボロボロと姿を変えて崩壊していきます。美しい少女と、今まで助けて来たかわいらしい女の子が笑い合う表情、その姿を最後に、あなたたちは崩壊する世界から意識を手放します。しばらくして目を覚ますと、そこは先ほどと同じ寝室。だが、倒した男と少女の姿は見当たらない。そこには一人、唯が佇んでいることでしょう。迷宮から抜け出せたことを理解したパーティーの参加者たちの喜び合う声が二階にまで響いてきます。と、いうことで皆様、目を覚ましたことかな。RP、したければ。

財多 美剣／するべ！

水守 茉莉／するぜ！

財多 美剣／ん、あ、あれ？ 寝てた？ あゝ、あ、そうだ。迷宮から脱出した、っていうかできたんだよな、これ。

水守 茉莉／たぶん。

イレネ／うん。

水守 茉莉／イレネさん、大丈夫ですか？

イレネ／あ、うん。いや、たぶん大丈夫。あれ、あの二人は？

財多 美剣／確かに。いませんね。

GM／「はい、私はそれを説明するために残っていました。いま、お父様と雪様はパーティの参加者たちに説明するために、先に1階へと降りています。きつと下へ戻ると、なかなか光景が広がっているとは思いますが。とにかく、迷宮からは脱出することができたみたいです。本当にありがとうございます」

財多 美剣／どういたしまして。
イレネ／いやあ、よかった。全員、生きて帰ってこれた。

水守 茉莉／唯さんが案内してくれたおかげもあるかも。ありがとう。

GM／「いえいえ。でも、なんか途中で……わたし役立たずみたいなことを言われていた気がするのですが……」

水守 茉莉／え、あなたの気のせいじゃないかなあ？

GM／「あ、やっぱり気のせいですよ」

水守 茉莉／え、誰がそんなこと言ったんだろうね？

GM／「茉莉さんがそんなこと言うわけないですもんねー！」

イレネ／(笑)

GM／「いやあ、幻聴、幻聴」

水守 茉莉／だってずっとあなたのこと守ってたもんね？

GM／「ええ、私たち仲良しなもの、ね？」……「あれ？」

イレネ／(笑)

水守 茉莉／あー、そうね。じゃあ下に行きましょう？

イレネ／下いくかあ(笑)

GM／「あれえ、はぐらかされた気がするう……あれえ？」

水守 茉莉／この迷宮は私たち四人で攻略したんだ！　ってみんなに広めてやりましょうよ！

GM／「え、ええ。そうね。私も少しは力になれていたのなら、よかった……うん、よかったわ」

GM／そう言って1階に下りて行ったあなたたちは、説明をする貴楽部社長と、その横に並ぶ雪嬢の姿、あとはその話を微塵も聞かずに、迷宮から出たことを喜ぶパーティの参加者たちの姿が見えるでしょう。

財多 美剣／うわ、あれ全然話聞いてないじ

やん。

水守 茉莉／マイク奪ってさ、その美剣がやったみたいに唯さんが「私が迷宮攻略に貢献しました！」って叫べばいいんじゃない？

財多 美剣／お、やる？　いくいく？　唯さん。

GM／「は、はい。やってみます！」

財多 美剣／ん。じゃあ僕たちも近くに行くかあ。じゃあ、茉莉らを引っ張ります

イレネ／あー、じゃあ私、後ろから見てる。

水守 茉莉／イレネさんの手を掴みます。ほら、イレネさんも行きますよ。

GM／あらあら。じゃあまあ、そうですね。ステージの上に立ったあなたたちは大きな声でマイクに向かってこう叫ぶでしょう。

「私たち四人で、迷宮攻略しましたー！」と。

水守 茉莉／ぱちぱちぱち

GM／そのあと、貴楽部社長の計画が暴かれ、トラブルなどもありましたが。事件は無事落ち着きを見せ、あなたたちは元の生活へと戻っていくでしょう。そうしていつもと一風変わった迷宮攻略は幕を閉じた。家に帰り、ようやく一息つける、と椅子に腰を下ろす。瞬

間、携帯の音が鳴る。〇〇区のアパートで迷宮が発生、至急現場へ向かってください。その連絡をうけ、あなたたちはため息をつきながらも新たな仕事へ向かうのだろう。あなたに捧げる杯を。シナリオ、クリアです。お疲れさまでした。

イレ―ネ・財多 美剣・水守 茉莉／お疲れさまでした〜！

▷ あとがき

今回はサイコロ倶楽部の部誌「Xi: vol.20」(サイコロ)をお手に取っていただき誠にありがとうございます。皆様に少しでも活動の雰囲気や TRPG の楽しさが伝われば幸いです。

掲載した迷宮デイズは約3時間のセッションの書き起こしだったのでボリュームがありましたが、ここまで読んでいただけて大変嬉しく思います。

今回は余裕がない中での部誌の制作で、スケジュールの管理や連絡の不足など不安な点や至らない点はいろいろとありましたが、部員の皆の協力と先輩方の助力のおかげで形にすることができて一安心しています。

最後に、毎年恒例となっている『深淵 RPG』付属の「運命のカード」から1枚を引きまして、終わりの言葉とさせていただきます。

「我はここで待つ。汝の時が至るのを。」

紫の牧人

部長 ベに

▶ 奥付

編集◆あいろん、ベに

表紙◆ベに

発行年月日：2024年10月26日

発行：サイコロ倶楽部

連絡先：跡見学園女子大学

新座キャンパス 学生会館

印刷会社：ちょ古っ都製本工房